

消防年報

平成 30 年(2018 年)版



鎌倉市消防本部

は じ め に

この年報は、平成30年(2018年)中の鎌倉市消防本部の実態を紹介するために、消防活動等のあらましを集録したものです。

統計の主なものは、平成31年(2019年)4月1日現在で調査しましたが火災・救急・その他一部の統計については、歴年によって表しました。

本市の消防について、ご理解いただくうえでの資料として少しでもお役にたてば幸いです。

令和元年(2019年) 8月

鎌倉市消防本部

鎌倉市民憲章

昭和48年11月3日制定

前文

鎌倉は、海と山の美しい自然環境とゆたかな歴史的遺産をもつ古都であり、わたくしたち市民のふるさとです。すでに平和都市であることを宣言したわたくしたちは、平和を信条とし、世界の国々との友好に努めるとともに、わたくしたちの鎌倉がその風格を保ち、さらに高度の文化都市として発展することを願い、ここに市民憲章を定めます。

本文

1. わたくしたちは、お互いの友愛と連帯意識を深め、すすんで市政に参加し、住民自治を確立します。
1. わたくしたちは、健康でゆたかな市民生活をより向上させるため、教育・文化・福祉の充実に努めます。
1. わたくしたちは、鎌倉の歴史的遺産と自然及び生活環境を破壊から守り、責任をもってこれを後世に伝えます。
1. わたくしたちは、各地域それぞれの特性を生かし、調和と活力のあるまちづくりに努めます。
1. わたくしたちは、鎌倉が世界の鎌倉であることを誇りとし、訪れる人々に良識と善意をもって接します。

平和都市宣言

昭和33年8月10日

われわれは、日本国憲法を貫く平和精神に基いて、核兵器の禁止と世界恒久平和の確立のために、全世界の人々と相協力してその実現を期する。多くの歴史的遺跡と文化的遺産を持つ鎌倉市は、ここに永久に平和都市であることを宣言する。

目 次

鎌倉市の概要	1
鎌倉市消防の沿革	2
鎌倉市の主な火災・災害等	19
鎌倉市消防機構図	24
事務分掌	25
鎌倉市の消防力の整備指針・消防水利の基準	26
鎌倉市消防機関分布図	27
消防庁舎概況	28
 〔消防総務〕	
消防費の割合・消防費歳入予算（令和元年度）	31
消防費歳出予算（令和元年度）	32
職員階級別状況	33
職員の配置状況、居住区域状況	35
職員の階級別年齢、階級別勤続年数	36
職員の教養状況（過去5年間）	37
 〔警防救急〕	
火災件数の推移、火災件数推移表	38
火災件数（月別）（過去5年間）	39
火災件数（原因別）（過去5年間）	40
火災件数（原因別）比較表（平成30年中）	40
火災出動状況（月別）（平成30年中）	40
火災被害状況（過去5年間）	41
救助出動状況（過去5年間）	43
消防水利統計	44
車両配置表	45
車種別一覧表	46
主な消防機器の配備状況	47
消防相互応援に関する協定等	48
高層建築物へリコプター緊急離着陸場等	48
救急出動の推移	49
出動件数及び市民利用度推移表	49
救急出動状況（月別）（平成30年中）	50
救急出動状況（地域別）（平成30年中）	51
救急出動状況（時間別）（平成30年中）	52
救急事故種別の割合	52
時間別救急件数	52
搬送人員状況（程度別・収容医療機関別）（平成30年中）	53
搬送人員状況（年齢別）（平成30年中）	54
年齢別搬送人員の割合	54
男女別搬送人員の割合	54
程度別搬送人員の割合	54
救命講習等実施状況	55
主な救急資機材の配置状況	56
AED設置場所	57
救急協力事業所	58

〔指令情報〕

高機能消防指令センター機器・通信機器一覧表	60
119番受信状況（平成30年中）	62
年間気象観測データ（平成30年）	63
高機能消防指令センターネットワーク図	66

〔予防〕

防火対象物及び防火管理者選任状況	69
中高層建築物一覧表	70
建築確認申請消防同意状況（業態別）	71
建築確認申請消防同意状況（月別）	72
建築確認申請消防通知状況	72
建築確認申請消防通知状況（月別）	72
危険物施設数及び類別状況	73
危険物施設の許可・完成検査及び廃止届の状況	73
危険物施設管内別状況	73
文化財保有社寺等防災施設	74
動力消防ポンプ現有自衛消防隊一覧	76
市火災予防条例等に基づく諸届出の事務取扱状況	77

〔消防団〕

消防団現況	78
消防団員の年齢及び実員・勤続年数	79
消防団員就業状況	80
消防関係記念日・年中行事	81

鎌倉市の概要

鎌倉市は、神奈川県の南東部に、また三浦半島の基部にあたり、東に逗子市、西に藤沢市、南に相模湾が開け、北は横浜市と接しています。

静かな海と緑の山々に囲まれて、その中に神社仏閣がいたるところに見られ、自然と歴史が調和された街でもあります。面積は、39.67km²

平成31年（2019年）4月1日現在の人口は、172,321人 世帯数は、74,622世帯です。

昭和14年11月3日鎌倉郡鎌倉町と腰越町が合併し鎌倉市として誕生、その後昭和23年に深沢村と大船町を加えて現在の鎌倉市となっています。

現在の鎌倉市を大きく分けると5地域に分けることができます。

海水浴場としても有名で古都鎌倉を代表する歴史的遺産が多くある鎌倉地域。
漁港地として栄え、今や住宅地に変わりつつある腰越地域。

柏尾川沿いに広がっていた田園風景が、宅地や工場地帯へと変容しつつある深沢地域。

大船駅東口を中心に商工業の活発な大船地域。

近郊農業と、首都圏へのベッドタウンとして年々人口が増加している玉縄地域といった5つの特色のある町です。

そして、長い歴史と静かな町並み、鎌倉を愛した先人達の足跡を大切に守り伝えるために、昭和41年京都・奈良と共に古都保存法を制定するなど、歴史的遺産と自然環境の保護・保全に全力をあげています。

また、『平和を信条とし、鎌倉の風格を保ち高度の文化を創造するまち』をテーマにして、昭和55年度から昭和60年度まで第1次鎌倉市総合計画を実施し、昭和61年度から平成7年度までの10年間は、第2次鎌倉市総合計画が実施されました。平成8年度から令和7年度（2025年度）までは、『古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち』を将来都市像に掲げた第3次鎌倉市総合計画が実施されています。



市の中心位置
東経139° 33' 01" 北緯35° 18' 58"

鎌倉市消防の沿革

年 月 日	事 項
昭和13年 8月13日	従来の鎌倉町消防組組織を一部改正、鎌倉町小町66番地に消防組常備消防部を設置した。(部長以下19名)
14年 4月 1日	警防団令公布により、鎌倉町警防団常備消防部と改称した。
11月 3日	鎌倉郡鎌倉町と腰越町が合併し、市制を敷く。
17年 3月 1日	腰越土橋152番地に分駐所を設置した。(班長以下6名)
20年 6月 1日	太平洋戦争の激烈化により本土空襲に備えて、官設消防(横浜)から消防士補以下16名の消防官と消防車2台の応援を得た。
21年10月 1日	特設消防署として、県に移管した。
22年 2月15日	特設消防署規程の改正により、常備消防部を廃止し、新たに神奈川県鎌倉消防署及び腰越出張所を開設した。人員、署長(消防士 小山太一郎)以下49名、車両、消防自動車5台・三輪消防車2台、計7台であった。
6月18日	鎌倉市消防団設置条例が制定された。
10月 1日	鎌倉市鎌倉消防団団長に中村俊雄が就任した。
23年 1月 1日	深沢村を合併し、深沢消防団団長に大木正司が就任した。
3月 7日	官設消防は、あげて自治体に移管となり、警察から独立し、鎌倉市消防本部並びに下部組織として鎌倉消防署及び腰越出張所と改称し、自治体消防として発足した。人員、消防長(初代 小山太一郎)以下72名、消防車両7台をもって業務を開始した。
4月20日	長谷出張所を長谷246番地に新設し、消防曹長以下10名、消防車両1台をもって業務を開始した。
6月 1日	大船町を合併し、大船消防団団長に山中常吉が就任した。
8月 1日	職員の階級名の改称が行われ、消防司令は「消防司令長」に、消防士・機関士は「消防司令」に、消防士補・機関士補は「消防司令補」に、消防曹長は「消防士長」に、消防手は「消防士」に改められた。
24年 8月29日	鎌倉市職員定数条例が制定され、消防機関に常時勤務する職員の定数を127人とした。
25年 5月 3日	大船地区火災警防のため、台638番地に大船消防署を新設し、

年 月 日	事 項
	消防司令補以下15名、消防車2台をもって業務を開始した。
	腰越出張所を分署に昇格させ、分署長以下13名を配置し、業務の充実を図った。
昭和25年10月25日	消防本部の機構改革を行い、次長制を廃止し、課長制をしき2課6係とした。 総務課 経理係・教養監察係・庶務係 消防課 機関係・消防係・予防係
27年 5月 1日	都市等級査定の結果、4級都市に格付けされた。
8月 1日	鎌倉市深沢消防団団長に矢沢賢一が就任した。
28年 2月20日	鎌倉市鎌倉消防団団長に小坂喜男が就任した。
3月 3日	自治体消防5周年記念に際し、本市消防本部・消防団は、国家消防本部から優良消防機関として表彰旗を授与された。
8月 1日	鎌倉消防署に救急車1台を配置して、救急業務を開始した。
8月27日	消防職員の定数は、110人となった。
29年12月 1日	深沢分遣所を常盤137番地に新設開庁した。
31年 2月 1日	鎌倉市大船消防団団長に小泉孫好が就任した。
33年 1月 7日	日本損害保険協会から消防ポンプ自動車1台の寄贈を受け、長谷出張所に配置した。
35年 4月 1日	鎌倉・大船・深沢の3団を統合し、鎌倉市消防団として発足し、初代団長に小坂喜男が就任した。
36年10月25日	消防長 小山太一郎が病没した。享年52歳。 正五位勲五等瑞宝章を追贈された。消防長職務代理者に消防課長 消防司令 矢地 翁が任命された。
11月 1日	消防司令 矢地 翁は、消防司令長に昇任し、二代目消防長に就任した。
11月27日	消防用無線電話（周波数変調式150MHz帯）を設置した。
37年 2月22日	消防本部機構を改め2課4係とした。 総務課 管理係・経理係 消防課 警防係・予防係
4月 1日	二代目消防団長に副団長 小泉孫好が就任した。
11月 1日	階級準則の改正に基づき、消防長 消防司令長 矢地 翁は消防監に就任した。
12月 1日	腰越分署を腰越地区の都市進展状況に鑑み、腰越支所との合

年 月 日	事 項
	同庁舎に移転した。
昭和38年 4月 1日	消防職員の定数は、113人となった。
38年 6月 1日	深沢分遣所を出張所に昇格させ、従来2名配置（機関員のみ）を8名配置とした。
7月 1日	市長の諮問機関として消防審議会が設置され、本市消防の改善と適正な運営を図ることとし、12月14日に答申された。
39年10月11日	玉縄消防隊を玉縄地区に設置した。
12月17日	消防課長 消防司令 城田繁蔵（51歳）が執務中病没し、同日付で消防司令長に昇進し、正七位勲七等瑞宝章を追贈された。
40年 4月 1日	三代目消防団長に副団長 小磯茂夫が就任した。
	消防職員の定数は、118人となった。
41年 4月 1日	消防職員の定数は、123人となった。
11月14日	日本損害保険協会から水槽付消防車1台の寄贈を受け、長谷出張所に配置した。
42年 4月 1日	四代目消防団長に副団長 桶川長次が就任した。
	消防職員の定数は、129人となった。
5月 1日	消防課に防災主査を置き、防災事務を開始した。
5月13日	大船消防署に予備の救急車を改装して配置し、大船地区の救急業務を開始した。
6月10日	鎌倉市消防特別救助隊（レンジャー隊）が発足した。
43年 2月 6日	消防司令 勝又福三郎（47歳）が病没し、同日付で消防司令長に昇進し、正七位勲七等瑞宝章を追贈された。
4月 1日	消防職員の定数は、138人となった。
4月 8日	鎌倉市危険物安全協会が発足した。
10月 1日	消防副士長制度を採用した。
44年 4月 1日	五代目消防団長に副団長 松井四郎が就任した。
	消防職員の定数は、143人となった。
8月20日	第29分団器具置場を建設した。
45年 3月31日	第28分団器具置場を建設した。

年 月 日	事 項
昭和45年 5月15日	大船消防賛助会が解散式を行った。
5月22日	深沢消防後援会が解散式を行った。
6月 1日	鎌倉消防賛助会が解散式を行った。
6月 2日	鎌倉消防署救助隊に救助工作車を配置し、救助活動の充実を図った。
12月 1日	鎌倉市消防団第10分団を第11分団に統合した。
46年 3月30日	第23分団器具置場を建設した。
4月 1日	消防職員の定数は、144人となった。
8月17日	救急車の従来のサイレンを廃止して、法令に基づく電子サイレン（ピー・ポー式）に改めた。
9月 2日	消防長 消防監 矢地 翁は、鎌倉市参事となり総務課付となった。消防司令長 楠山守男は、消防監に昇任し、三代目消防長に就任した。
9月17日	消防本部・消防団が防災功労団体として自治省消防庁長官表彰を受賞した。
47年 3月27日	鎌倉市地震対策部会が、鎌倉市助役 杉山誠一を部会長に委員13名をもって発足した。
4月 1日	消防職員の定数は、154人となった。
5月 1日	鎌倉市消防本部組織等規則を一部改正し、消防課を警防課に改めた。
7月 1日	消防本部の機構を一部改め、防災担当を新設し、主幹以下3名をもって事務を開始した。
7月15日	第2分団器具置場を建設した。
12月 7日	地震対策用街頭消火器としてA B C粉末消火器（6.5kg入）50本を市内に分散配置した。
12月26日	大船消防署に化学消防ポンプ自動車を配置した。
48年 4月 1日	六代目消防団長に副団長 岡田伊三郎が就任した。
	消防職員の定数は、159人となった。
4月 5日	大船消防署玉縄出張所庁舎完成に伴い極楽寺3-2-9にあった消防寮を玉縄出張所庁舎に移転した。
4月11日	大船消防署玉縄出張所庁舎新設とともに玉縄消防隊を玉縄出

年 月 日	事 項
	張所に昇格させ、所長以下10名を配置し、消防業務を開始した。
昭和48年 7月20日	台風6号の警戒のため消防車で巡回中、同乗中の団員が車両のバウンドにより転落、後頭部を強打し殉職した。同日、勲7等に叙せられ瑞宝章を授与された。なお、2階級特進し部長に昇任するとともに、鎌倉市長から消防功労章がおくられた。
8月 1日	第9分団器具置場を建設した。
9月27日	第16分団器具置場を建設した。
49年 3月30日	第27分団器具置場を建設した。
4月 1日	消防職員の定数は、177人となった。
6月 1日	第18分団器具置場を建設した。
6月10日	水害防災用としてゴムボート20隻を購入し、鎌倉消防署に5隻、大船消防署に3隻、水害多発分団に12隻を分散配置した。また、折りたたみ式ボート1隻を購入し、鎌倉消防署に配置した。
9月20日	消防本部・鎌倉消防署合同庁舎が完成した。 鎌倉消防署が新庁舎で業務を開始した。
	消防本部警防課に警防通信係を新設し、9名を配置し、通信業務を開始した。複信式救急波の割当を受けた。
9月22日	消防本部が、新庁舎に移転し、業務を開始した。
11月15日	コンピューターによる医療情報の業務を開始した。
11月25日	鎌倉消防署に梯子付消防ポンプ自動車（24m級）を配置した。
50年 1月12日	消防出初式を消防始式と改めた。
1月20日	地震時における広域避難場所17か所を鎌倉市防災会議で決定した。
3月28日	第15分団器具置場を建設した。
3月29日	第17分団器具置場を建設した。
4月 1日	警防課に消防士長以下4名を増員し、予防査察制度の一元化を図った。 鎌倉市液化石油ガス販売業者防火協力会が発足した。
11月 1日	防災担当を課制に改め防災課とし、市長部局から2名着任し

年 月 日	事 項
	2係で防災業務の強化を図った。
	消防職員の定数は、179人となった。
昭和50年12月 1日	本市特有の谷戸火災対策としてホース延長車を職員の考案により作成し、第1号車を鎌倉消防署に配置した。
12月11日	日本損害保険協会から水槽付消防車1台の寄贈を受け、鎌倉消防署に配置した。
51年 3月30日	非常警報施設の運用を開始し、防災情報伝達業務の迅速化を図った。
3月31日	第12分団器具置場を建設した。
5月29日	腰越分署に救急車を配置し、腰越地区及び深沢地区の救急業務の充実を図った。
12月27日	消防職員の定数は、191人となった。
52年 4月 1日	七代目消防団長に副団長 今村一郎が就任した。
7月15日	警防課に査察係を新設するとともに査察車1台と係長以下6名を配置し査察事務を開始した。
53年 2月17日	警防課に査察車1台を増車し、計2台を配置し査察事務の効率化を図った。
3月30日	第1分団器具置場を建設した。
4月 1日	消防職員の定数は、197人となった。
5月 1日	鎌倉消防署浄明寺出張所を新設し、消防車1台と12名を配置し業務を開始した。
11月16日	第24分団器具置場を建設した。
54年 1月 1日	消防本部組織等規則の改正に基づき、消防長 消防監 楠山守男は、消防正監に昇任した。同時に次長制をしき、総務課長が昇格し、次長兼総務課長に就任した。
4月 1日	消防職員の定数は、205人となった。
10月 8日	玉縄出張所に救急車を配置し、救急業務を開始した。
11月15日	予防課を新設し、課長以下11名を以て予防行政の充実を図った。
11月24日	第22分団の消防ポンプ車を小型動力ポンプ付積載車に切り替えたことにより、全消防分団の車両が小型動力ポンプ付積載車に切り替わった。
11月27日	第13分団器具置場を建設した。

年 月 日	事 項
昭和55年 4月 1日	乾式連結送水管を高台等の火災防御困難地区に設置し、消防活動の迅速化を図った。
9月18日	大船消防署新庁舎にて消防業務を開始した。 同消防署敷地内に防災備蓄倉庫第1号が完成した。
12月26日	第6分団器具置場を建設した。
56年 4月 1日	八代目消防団長に副団長 梅沢市郎が就任した。 消防職員の定数は、209人となった。
12月26日	第22分団器具置場を建設した。
57年 3月11日	大船消防署に梯子付消防ポンプ自動車（35m級）を配置した。
3月23日	深沢出張所を新築移転するとともに、分署に昇格させ、分署長以下18名を配置し、消防業務の充実を図った。同時に救急車1台を配置し、救急業務を開始した。 同分署敷地内に防災備蓄倉庫第2号が完成した。 大船消防署に特別救助隊が発足した。
4月 1日	消防職員の定数は、216人となった。
12月 5日	大船消防署台分遣所・第5分団器具置場合同庁舎を開設し、7名を配置し業務を開始した。
58年 1月 1日	救急業務記録原票をコンピューター処理に切替え、統計事務の簡素化を図った。
7月15日	アルミックス製防火衣を購入し、防火衣の整備を図った。
7月28日	消防本部に防災資機材搬送車を配置した。
9月30日	市民の震度体験とあわせて防災知識の高揚を図るため、防災課に起震車を配置し、防災業務の充実を図った。
12月 9日	第7分団器具置場を新築移転した。
59年 4月 1日	消防職員の定数は、220人となった。
8月23日	大船消防署に防災資機材搬送車を配置した。
10月 1日	浄明寺出張所に救急車を配置し、救急業務を開始した。
12月19日	第21分団器具置場を建設した。
60年 3月28日	大船消防署に多目的特殊車を配置した。
3月30日	消防長 消防正監 楠山守男が退職した。

年 月 日	事 項
昭和60年 3月 31日	鎌倉市助役 磯田正一が消防長事務取扱となった。
4月 1日	次長兼総務課長 消防監 深津芳夫が消防正監に昇任し、四代目消防長に就任した。 九代目消防団長に副団長 守屋信藏が就任した。
12月 25日	第8分団器具置場を建設した。
61年 4月 20日	消防本部、浄明寺出張所敷地内にコンテナ式防災備蓄倉庫を設置した。
12月 26日	第20分団器具置場を建設した。
62年 1月 6日	消防始式を消防出初式と改めた。
9月 5日	日本損害保険協会から化学消防ポンプ自動車の寄贈を受け、深沢分署に配置した。
平成元年 4月 1日	十代目消防団長に副団長 伊藤一美が就任した。
2年 3月 31日	第19分団器具置場を建設した。
5月 31日	台分遣所を本市機構改革に伴い、台出張所と改称した。
12月 1日	鎌倉市医師会の協力により『救急ドクターズカー』の試行を3ヵ月間実施した。
3年 2月 28日	消防テレホンサービス業務を開始した。
4月 1日	深沢分署の消防ポンプ車更新に伴い、動力付ホースカーを装備して、消防力の充実を図った。
6月 18日	総務課に緊急情報システム担当が新設された。
4年 4月 1日	第25分団器具置場を建設した。 署長が次長級となった。 緊急情報システムが完成し運用を開始した。 本市消防機構改革に伴い、指令課を新設し、指令業務の充実を、警防課に機関係を新設し、機関事務の充実を図った。さらに、消防署に課制を敷き警備第一課及び警備第二課を新設し警備体制の充実を図るとともに、「分署」呼称を廃止し、全て「出張所」としたため腰越分署、深沢分署はそれぞれ出張所となった。
8月 7日	消防本部に水陸両用水難救助車を配置し、水難救助の充実を図った。
9月 3日	日本消防協会から救急車の寄贈を受け、玉縄出張所に配置した。

年 月 日	事 項
平成 4 年 12 月 28 日	大船地区の篤志家から水害対策用車両の寄贈を受け、大船消防署に配置した。
5 年 1 月 12 日	職員の高齢化対策として鎌倉・大船両消防署に高速高圧ホース洗浄器を配備した。
2 月 1 日	完全週休二日制を実施した。(毎日勤務者 4 週 8 休制、隔日勤務者 8 週 13 休制)
4 月 1 日	十一代目消防団長に副団長 田中新三が就任した。
10 月 1 日	鎌倉消防署に最新型高規格救急自動車を配置し、救急業務の高度化を図った。
10 月 21 日	腰越出張所の消防ポンプ車更新に伴い、職員の高齢化対策としての乗車型の動力付ホースレイヤーを装備して、消防力の充実を図った。
12 月 24 日	本市初の救急救命士が誕生した。
6 年 4 月 1 日	鎌倉市医師会の協力を得て、救急救命士制度の本格的運用を開始した。
	隔日勤務職場の 4 週 8 休制を実施した。
	第 4 分団器具置場を建設した。
4 月 13 日	長谷出張所新庁舎が完成し 4 月 15 日から業務を開始した。同庁舎に防災備蓄倉庫を併設した。
9 月 1 日	「鎌倉市応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱」を制定し、応急手当の正しい知識と技術の普及を図り、救命率と社会復帰率の向上に努めた。
7 年 1 月 18 日	1 月 17 日に発生した阪神・淡路大震災に鎌倉救助隊 1 隊を派遣した。
7 月 15 日	鎌倉エフエム放送(株)と業務締結し、緊急割り込み放送を行う災害緊急情報伝達装置の運用を開始した。
12 月 20 日	自治省消防庁から緊急消防援助隊旗が交付された。
8 年 4 月 1 日	市の機構改革に伴い、「係制」を廃止し、「担当制」を導入した。
	防災課を廃止し、警防課に災害対策担当を新設した。これまで防災課で行っていた防災業務を企画部に新設された総合防災課に移管し、防災業務の一部を警防課災害対策担当で行うこととした。
	次長の総務課長兼務を解き、専任とした。

年 月 日	事 項
平成 8 年 9 月 18 日	大船消防署の救急車を最新型高規格救急自動車に更新した。
10 月 1 日	鎌倉市消防本部職員委員会が発足した。
9 年 1 月 1 日	警防課の機関担当を廃止し、警防担当及び災害対策担当の 2 担当とした。 副署長を両署に各 2 名置き、当直勤務とした。
3 月 23 日	鎌倉ライオンズクラブから投光器一式の寄贈を受け、大船消防署に配置した。
3 月 31 日	消防長 消防正監 深津芳夫が退職した。
4 月 1 日	次長 消防監 山崎博夫が消防正監に昇任し、五代目消防長に就任した。 十二代目消防団長に副団長 和田豊作が就任した。 鎌倉市消防吏員の服制等に関する規則を一部改正し、救急服を導入した。
9 月 29 日	日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車 1 台の寄贈を受け、鎌倉消防署に配置した。
10 年 3 月 13 日	消防本部庁舎の耐震補強工事が完了した。
4 月 1 日	第 14 分団器具置場をたまなわ交流センター内に移転した。
11 年 1 月 1 日	緊急情報システムを更新し、コンピューターの 2000 年対応と併せて指令業務の充実強化を図った。
3 月 1 日	腰越支所・腰越出張所合同庁舎が支所移転に伴い、庁舎が消防所管となった。
3 月 15 日	聴覚障害者等の緊急連絡対策としてファックス 119 番システムを導入した。
4 月 1 日	鎌倉市消防計画を消防組織法に基づき制定した。
6 月 4 日	鎌倉市医師会から高度救急処置シミュレーター装置一式の寄贈を受け、大船消防署に配置した。
12 年 3 月 8 日	本市消防本部・消防団は、消防庁長官から優良消防機関として竿頭綬を授与された。
3 月 9 日	鎌倉消防署にはしごの使用架梯が水平以下 15 度まで可能となるバスケット装置付のはしご付消防自動車（24m 級）に更新した。

年 月 日	事 項
平成 12 年 4 月 1 日	本市初の女性消防吏員が誕生した。
6 月 12 日	鎌倉消防署に水難救助用水上オートバイを配置した。
10 月 25 日	大船消防署の耐震補強工事が完了する。
13 年 4 月 1 日	市の機構改革に伴い、消防本部で行っていた防災業務を企画部総合防災課に移管したことにより、警防課災害対策担当を廃止し、警防担当の 1 担当とした。 十三代目消防団長に副団長 関根昇次が就任した。
14 年 3 月 27 日	第 11 分団器具置場を建設した。
7 月 9 日	第 9 分団器具置場を建設した。
15 年 1 月 29 日	深沢出張所救急車を最新型高規格救急車に更新した。
3 月 20 日	鎌倉市消防団は、神奈川県消防協会から優良消防機関として竿頭授を授与された。
3 月 21 日	玉縄出張所の耐震補強工事及び庁舎整備工事が完了した。 第 13 分団器具置場を建設した。
4 月 1 日	次長兼総務課長制とした。 再任用制度を導入した。
16 年 1 月 15 日	大船消防署にはしごの使用架梯が水平以下 15 度まで可能となるバスケット装置付のはしご付消防自動車（37m 級）に更新した。
3 月 31 日	消防長 消防正監 山崎博夫が退職した。
4 月 1 日	事務吏員 菅原俊幸が六代目消防長に就任した。 鎌倉市消防吏員の服制等に関する規則を一部改正し、活動服を導入した。 次長の総務課長兼務を解き、専任とした。
8 月 27 日	KDD I からの 119 番接続を行い、受信を開始した。
10 月 29 日	10 月 23 日に発生した新潟県中越地震に緊急消防援助隊（消防隊 1 隊、救急隊 1 隊、支援隊 1 隊）を派遣した。
12 月 10 日	日本テレコムからの 119 番接続を行い、受信を開始した。
17 年 1 月 21 日	大船消防署の高規格救急車を最新型に更新した。
2 月 1 日	本市初の気管挿管認定救急救命士が誕生した。

年 月 日	事 項
平成 17 年 2 月 24 日	平成電電からの 119 番接続を行い、受信を開始した。
3 月 3 日	鎌倉大船ロータリークラブより子供用防火服 4 セットが寄贈された。
3 月 22 日	第 29 分団器具置場を建設した。
4 月 1 日	特命担当として救急救命担当を新設し課長職 1 名、兼務担当主査 7 名を配置した。 総合防災課へ出向者 3 名を事務吏員に転任した。 消防テレホンサービスの無料化を行った。 十四代目消防団長に副団長 秋元 昭が就任した。
4 月 21 日	救急隊及び消防隊連携出場基準（P A 連携）を制定し、迅速な救急業務の向上に努めた。
6 月 28 日	N T T 東日本（I P 電話）からの 119 番接続を行い、受信を開始した。
7 月 21 日	鎌倉市医師会・病院会から自動体外式除細動器（A E D）が寄贈され、救命率と社会復帰率の向上を図った。
9 月 1 日	「非医療従事者による自動体外式除細動器（A E D）の使用について」が通知されたことにより各消防隊へ A E D を配置し、心肺停止患者の救命率の向上を図った。
9 月 7 日	携帯電話からの 119 番通報を直接受信に移行した。
9 月 28 日	玉縄出張所の高規格救急車を最新型に更新した。
10 月 1 日	各消防分団に相互通信可能な無線機を整備し、災害時の情報の共用化を図った。
11 月 30 日	第 26 分団器具置場を建設した。
12 月 20 日	消防テレホンサービス回線を 10 回線から 20 回線とした。
18 年 3 月 27 日	元本市消防職員の遺族から最新型高規格救急車 1 台の寄贈を受け、大船消防署に配置した。
3 月 31 日	消防長 事務吏員 菅原俊幸が退職した。
4 月 1 日	事務吏員 浦 靖幸が七代目消防長に就任した。 次長兼警防課長制とした。 総務課を消防総務課に名称変更した。 指令課を廃止し、指令第一・第二担当を警防課に統合した。

年 月 日	事 項
平成 18 年 4 月 1 日	腰越出張所及び浄明寺出張所の救急車を最新型高規格救急車に更新し、全隊が、高規格救急車となり、救急救命士が同乗し、救急業務の高度化を図った。
5 月 1 日	市庁舎ほか 12 公共施設に A E D を設置し、救命率と社会復帰率の向上を図った。
7 月 12 日	鎌倉市患者等搬送事業認定基準（民間救急）を制定し、民間事業者 1 事業所を認定した。
10 月 4 日	本市初の薬剤投与（アドレナリン）認定救急救命士が誕生した。
11 月 21 日	平成電電がソフトバンクテレコムに事業譲渡したため、119 番接続を撤去し、受信を終了する。
12 月 15 日	鎌倉市救急協力事業所標章交付基準を制定し、6 事業所を「救急協力事業所」として認定するとともに救急体制の充実を図った。
19 年 4 月 1 日	次長兼警防課長制を解き、次長兼予防課長制とした。 大船消防署今泉出張所を新設し、消防車、救急車各 1 台を配置し、消防業務を開始した。
6 月 1 日	市福祉センターほか 16 公共施設に A E D を設置し、救命率と社会復帰率の向上を図った。
7 月 17 日	「救急協力事業所」として 7 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。
9 月 1 日	十五代目消防団長に副団長 内海寛士が就任した。
20 年 2 月 27 日	大船消防署の救助工作車を最新型に更新した。
3 月 17 日	「救急協力事業所」として 5 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。
3 月 31 日	消防長 事務職員 浦 靖幸が退職した。
4 月 1 日	大船消防署長 消防監 畑 光則が消防正監に昇任し、八代目消防長に就任した。 次長兼消防総務課長制とした。
6 月 1 日	市内 25 小中学校に A E D を設置し、救命率と社会復帰率の向上を図った。
21 年 2 月 5 日	今泉出張所の高規格救急車を最新型に更新した。
2 月 13 日	鎌倉市消防団は、日本消防協会から優良消防機関として竿頭綬を授与された。

年 月 日	事 項
平成 21 年 2 月 17 日	「救急協力事業所」として 6 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。
4 月 1 日	警防課を警防救急課に名称変更し、併せて特命担当であった救急救命担当を廃止し警防救急課に統合した。 警防課指令第一・第二担当を廃止し、新たに指令情報課を新設した。 次長兼予防課長制を解いた。
7 月 1 日	パソコンや携帯電話からの E メールでの通報が可能な、E メール 119 番通報システムを導入し、消防緊急通報の充実を図った。
22 年 3 月 15 日	鎌倉消防署の水難救助用オートバイを最新型に更新した。
3 月 19 日	鎌倉消防署の災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車を最新型に更新した。
3 月 24 日	「救急協力事業所」として 9 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。
4 月 1 日	消防職員の定数は、238 人となった。
23 年 1 月 11 日	「救急協力事業所」として 3 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。
3 月 14 日	3 月 11 日に発生した東日本大震災に緊急消防援助隊（消防隊 1 次・2 次延べ 14 名及び救急隊 1 次～4 次延べ 15 名）を派遣した。
3 月 31 日	消防長 消防正監 畑 光則が退職した。
4 月 1 日	大船消防署長 消防監 高橋 卓が消防正監に昇任し、九代目消防長に就任した。
4 月 17 日	鎌倉消防署七里ガ浜出張所を新設し、消防車、救急車各 1 台を配置し、消防業務を開始した。
8 月 15 日	鎌倉消防署七里ガ浜出張所の開庁に伴い管轄区域の重複を解消するため鎌倉消防署長谷出張所を閉庁するとともに、由比ガ浜海岸に面する鎌倉市消防団第 25 分団器具置場の拠点とした。
24 年 2 月 1 日	湘南東部における消防の広域連携等について、藤沢市・茅ヶ崎市・鎌倉市・寒川町の 3 市 1 町において、広域連携施策についての「覚書」を締結した。
2 月 17 日	鎌倉消防署の救助工作車を最新型消防ポンプ付救助工作車に更新した。
3 月 1 日	深沢出張所の高規格救急自動車を最新型に更新した。

年 月 日	事 項
平成 24 年 3 月 6 日	「救急協力事業所」として 5 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。(認定合計 41 事業所)
4 月 1 日	本市機構改革に伴い、特命担当として、デジタル化整備担当を新設し課長職 1 名を配置した。 また、消防総務課経理担当を廃止し、総務担当と統合、併せて消防署の警備第一課及び警備第二課を統合し、警備課とした。
12 月 11 日	「救急協力事業所」として 18 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。(認定合計 59 事業所)
25 年 2 月 27 日	大船消防署の化学車を最新型に更新した。
4 月 1 日	「救急協力事業所」として 34 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。(認定合計 93 事業所) 消防救急無線のデジタル化準備のため、特命担当として配置した課長職 1 名、デジタル化整備担当を配置した。 指令情報課に、デジタル整備担当を担当する日勤者 1 名を配置した。 十六代目消防団長に副団長 平井保男が就任した。
26 年 3 月 27 日	腰越出張所の高規格救急自動車を最新型に更新した。
3 月 31 日	玉縄出張所の消防ポンプ自動車を最新型に更新した。
4 月 1 日	消防救急無線のデジタル化準備のため、特命担当として配置していた課長職 1 名、デジタル化整備担当を廃止した。 指令情報課に、デジタル整備担当を担当する日勤者 1 名を増員し 2 名配置とした。
10 月 1 日	人事給与制度改正のため、主査、副主査制度が廃止となった。
12 月 17 日	老朽化した腰越出張所の解体作業が完了した。
27 年 1 月 23 日	大船消防署の高規格救急自動車を最新型に更新した。
3 月 10 日	「救急協力事業所」として 13 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。(認定合計 105 事業所)
3 月 31 日	消防長 消防正監 高橋 卓が退職した。 消防本部移転に合せ台出張所を閉庁した。
4 月 1 日	消防本部次長兼消防総務課長 消防監 斎藤 務が消防正監に昇任し、十代目消防長に就任した。 消防本部が、大船消防署庁舎に移転して高機能消防指令センター及び消防救急デジタル無線の運用を開始した。

年 月 日	事 項
平成 28 年 1 月 25 日	玉縄出張所の高規格救急自動車を最新型に更新した。
2 月 15 日	逗子市消防本部と職員人事交流を行った。
2 月 22 日	浄明寺出張所の消防ポンプ自動車を最新型に更新した。
3 月 28 日	「救急協力事業所」として 7 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。(認定合計 112 事業所)
4 月 1 日	鎌倉市消防団の組織等に関する規則を改正し、消防団本部に本団部長の役職を設けた。
11 月 30 日	消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律の施行にともない、活動服・防火衣の整備を行った。
12 月 1 日	「救急協力事業所」として 2 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。(認定合計 114 事業所)
29 年 1 月 17 日	今泉出張所の高規格救急自動車を最新型に更新した。
3 月 1 日	腰越出張所新庁舎が完成し業務を開始した。 消防団第 22 分団器具置場を併設し、屋上は津波来襲時の緊急避難スペースとした。
3 月 27 日	鎌倉消防署のはしご車を最新型屈折はしご付消防自動車(26m級)に更新した。
4 月 1 日	十七代目消防団長に副団長 小宮幸二が就任した。 神奈川県と 2 年間の職員人事交流を行った。
7 月 31 日	湘南鎌倉総合病院と派遣型救急ワークステーションの協定を締結し運用を開始した。
8 月 1 日	市内のコンビニエンスストアに A E D を設置した。
10 月 18 日	鎌倉消防署の高規格救急自動車を最新型に更新した。
11 月 23 日	火災による死者ゼロ 1,000 日を達成した。
30 年 4 月 1 日	次長兼指令情報課長制とした。
5 月 10 日	全国消防長会技術委員会を鎌倉市で開催した。
12 月 1 日	偵察用無人航空機(ドローン)の運用を開始した。
31 年 2 月 15 日	七里ガ浜出張所の高規格救急自動車を最新型に更新した。
3 月 31 日	消防長 消防正監 斎藤 務が退職した。

年 月 日	事 項
平成 31 年 4 月 1 日	<p>鎌倉消防署長 消防監 芥川 忠が消防正監に昇任し、十一代目消防長に就任した。</p> <p>十八代目消防団長に副団長 大井勝則が就任した。</p> <p>次長兼指令情報課長制を解いた。</p> <p>総務省消防庁から消防団車両の無償貸与を受け第4分団へ配備した。</p>

鎌倉市の主な火災・災害等

- 昭和26年4月26日 14時30分植木の寺院から出火。1棟766㎡を全焼。
損害額3,400万円。
- 昭和27年1月16日 2時10分大船の撮影所から出火。1棟2,350㎡を全焼。
損害額7,500万円
- 8月22日 15時45分大船の中学校から出火。3棟2,201㎡を全焼。
損害額700万円。
- 昭和32年9月21日 16時45分台の工場から出火。3棟609㎡を全半焼。
損害額1,100万円。
- 昭和33年9月27日 台風22号の来襲により死者1名、負傷者2名、家屋の全壊6棟、半壊4棟、床上浸水
947棟の被害が発生。
- 昭和34年2月14日 5時20分大町の洋品店から出火。4棟374㎡を全半焼。
損害額1,100万円。
- 昭和36年6月28日 梅雨前線の発達により大雨となり、552ヶ所に崖崩れがおき、死者10名、負傷者
11名、家屋の全壊42棟、半壊82棟、床上浸水2,821棟の被害が発生、6月23日から
29日までの総雨量1,128mm。(36.6豪雨)
- 昭和37年2月26日 20時59分小町の市役所から出火。2棟1,868㎡を全焼。
損害額4,600万円。
- 3月21日 14時45分腰越の神社から出火。山車小屋1棟114㎡を全焼。
損害額1,300万円。
- 昭和40年1月13日 1時40分雪ノ下の大学から出火。3棟4,424㎡を全焼。
損害額5,500万円。
- 1月30日 4時16分由比ガ浜の小学校から出火。13棟3,298㎡を全焼。
損害額4,300万円。
- 6月27日 梅雨前線の発達により27ヶ所に崖崩れがおき、床上浸水76棟、床下浸水793棟の被
害が発生、総雨量91.3mm。
- 9月17日 台風24号の来襲により、36ヶ所に崖崩れがおき、床上浸水44棟、床下浸水887棟の
被害が発生、総雨量133.5mm。
- 昭和41年1月2日 2時15分長谷の病院から出火(部分焼)。死者1名。
- 2月6日 15時30分長谷の山林から出火。10ha焼失。

- 昭和41年4月11日 8時47分二階堂の小学校から出火。2棟3,241㎡を全半焼。
損害額2,800万円。
- 6月28日 台風4号の来襲により139ヶ所に崖崩れがおき、死者1名、負傷者13名、家屋の全壊10棟、半壊6棟、床上浸水1,763棟の被害が発生。6月27日から28日までの総雨量232mm。
- 9月24日 台風26号の来襲により89ヶ所に崖崩れがおき、負傷者2名、家屋の半壊28棟、床下浸水9棟の被害が発生。9月24日から25日までの総雨量71mm。
- 昭和42年5月7日 15時36分大船の飲食店でプロパンガスが爆発。負傷者15名。
- 昭和46年3月17日 11時35分二階堂の山林から出火。15ha焼失。
- 昭和48年11月10日 集中豪雨により155ヶ所に崖崩れがおき、死者1名、負傷者1名、家屋の全壊2棟、半壊7棟、床上浸水1,439棟、床下浸水1,577棟の被害が発生、11月9日から10日までの総雨量219mm。
- 昭和49年7月8日 集中豪雨により91ヶ所に崖崩れがおき、全壊1棟、床上浸水493棟、床下浸水678棟の被害が発生。7月7日から8日までの総雨量163.5mm。1時間当たりの最高雨量57.3mm。
- 昭和53年3月8日 2時27分小町の菓子店から出火。3棟573㎡を全焼。
損害額5,600万円。
- 昭和54年7月9日 0時30分大船の医院から出火。1棟134㎡を全焼。死者2名、負傷者3名。
- 10月19日 台風20号の来襲により57ヶ所に崖崩れがおき、負傷者1名、家屋の全壊2棟、半壊15棟、一部損壊299棟の被害が発生。10月17日から19日までの総雨量94mm。
- 昭和57年8月1日 台風10号の来襲により30ヶ所に崖崩れがおき、負傷者1名、家屋の一部損壊41棟の被害が発生。7月31日から8月1日までの総雨量82mm。
- 9月12日 台風18号の来襲により150ヶ所に崖崩れがおき、死者2名、負傷者6名、家屋の全壊7棟、半壊2棟、一部損壊34棟の被害が発生。9月10日から12日までの総雨量326mm。
- 昭和58年3月2日 14時25分御成町の小学校から出火。1棟888㎡を全焼。
損害額5,300万円。
- 3月13日 18時46分腰越の住宅から出火。死者1名・4棟310㎡を全焼。
損害額1,900万円。
- 10月25日 16時50分小町の病院から出火（部分焼）。死者1名。
- 11月18日 13時15分大船の撮影所から出火。9棟674㎡を全半焼。
損害額1,300万円。

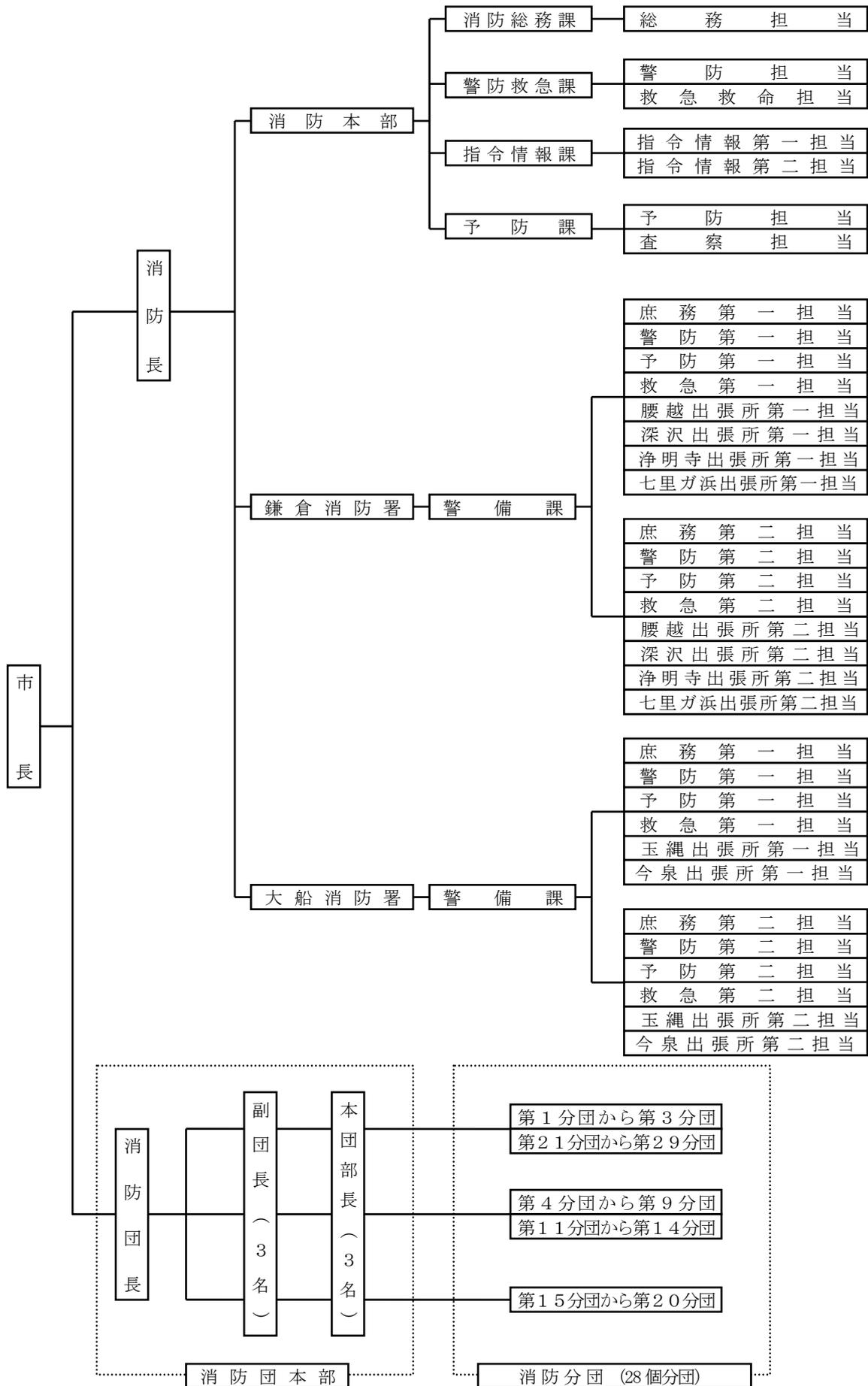
- 昭和59年3月29日 3時22分極楽寺の住宅から出火。1棟89㎡を全焼。死者3名、負傷者5名。
- 昭和60年6月30日 台風6号の来襲により69ヶ所に崖崩れがおき、負傷者1名、家屋の全壊1棟、一部損壊118棟、床下浸水3棟の被害が発生6月29日から7月1日までの総雨量126mm。
- 8月2日 2時15分腰越の作業場より出火。10棟489㎡を全半焼（部分焼を含む）。損害額3,000万円。
- 昭和61年2月3日 1時58分大船仲通りのストアーから出火。負傷者3名、6棟806㎡を全半焼（部分焼を含む）。損害額10,370万円。
- 昭和62年6月7日 材木座、由比ガ浜、稲村ガ崎及び腰越海岸に、電気クラゲ（カツオノエボシ）が異常発生し、その被害は、一日で救急出場が65件、搬送人員169名といった異例の事態が発生。
- 平成2年9月30日 台風20号の来襲により103ヶ所に崖崩れがおき、家屋の全壊6棟・一部損壊17棟・住家の床上浸水167棟・床下浸水539棟・非住家の浸水1,002棟等の被害が発生、総雨量188.5mm。
- 平成3年5月27日 14時09分由比ガ浜のガソリンスタンドで掘りだした地下タンクの解体作業中に爆発。死者1名・負傷者1名。
- 平成8年12月27日 3時36分笹田の住宅から出火。8棟353㎡を全半焼。死者1名。損害額2,647万円。
- 平成10年3月3日 17時15分岩瀬の住宅から出火。1棟全焼、5棟部分焼、死者1名、負傷者1名。損害額2,077万円。
- 平成13年6月26日 3時47分大船の店舗から出火。1棟全焼、1棟ぼや。損害額6,101万円。
- 平成16年1月19日 1時21分山ノ内の住宅から出火。1棟全焼、死者3名。損害額140万円。
- 2月15日 23時47分浄明寺の住宅から出火。1棟全焼、負傷者1名。損害額3,217万円。
- 3月17日 7時00分ころ津の住宅から出火。1棟全焼、負傷者3名。損害額4,373万円。
- 10月9日 台風22号23号の来襲により379ヶ所に崖崩れがおき、家屋の全壊1棟・半壊5棟・一部損壊151棟・住家の床上浸水106棟・床下浸水212棟・非住家の浸水478棟等の被害が発生した。死者1名。
- 20日
- 平成17年5月27日 9時44分今泉台の住宅から出火。2棟全焼、2棟部分焼、3棟ぼや、負傷者1名。損害額5,810万円。

- 平成18年2月21日 14時19分梶原の住宅から出火。1棟全焼、1棟部分焼、死者1名。
損害額784万円。
- 平成19年12月9日 10時27分玉縄の住宅から出火。1棟全焼、死者1名。
損害額141万円。
- 平成20年1月3日 5時47分植木の住宅から出火。2棟全焼、2棟部分焼、2棟ぼや、死者1名、負傷者2名。
損害額920万円。
- 3月12日 11時00分長谷の住宅から出火。1棟ぼや、死者1名。
損害額0.3万円。
- 5月17日 9時33分山ノ内の住宅から出火。1棟全焼、1棟ぼや、死者1名。
損害額261万円。
- 8月4日 10時40分大町の店舗から出火。2棟全焼、4棟ぼや。
損害額5,339万円。
- 8月23日 9時50分西御門の住宅から出火。1棟全焼、2棟ぼや。
損害額2,028万円。
- 平成21年9月26日 4時00分ころ寺分の住宅から出火。1棟全焼、1棟ぼや。
損害額3,768万円。
- 12月13日 18時57分雪ノ下の住宅から出火。1棟全焼、1棟ぼや、死者1名、負傷者2名。
損害額145万円。
- 平成22年3月25日 9時45分雪ノ下の住宅から出火。1棟全焼、1棟ぼや、負傷者2名。
損害額2,747万円。
- 12月29日 3時40分小町の住宅から出火。1棟全焼、1棟半焼、3棟ぼや、死者1名。
損害額2,382万円。
- 平成23年1月13日 21時52分ころ西鎌倉の住宅から出火。1棟全焼、1棟部分焼、車両1台全損、負傷者4名。損害額2,377万円。
- 3月17日 20時35分玉縄の住宅から出火。2棟全焼、4棟ぼや、負傷者2名。
損害額3,215万円。
- 平成24年10月18日 8時45分由比ガ浜の中高層建物2階から出火。2階一室部分焼、死者1名。
損害額446.9万円。
- 平成25年7月2日 8時10分ころ山ノ内の住宅から出火。4棟全焼、1棟ぼや、死者1名、負傷者1名。
損害額1,203万円。

- 平成26年1月7日 4時24分ころ浄明寺の住宅から出火。1棟半焼、負傷者3名。
損害額3,138.8万円。
- 2月12日 2時30分ころ材木座の住宅から出火。1棟全焼、2棟ぼや、死者1名
損害額2,349.3万円。
- 12月11日 10時00分ころ山ノ内の店舗併用住宅から出火。1棟全焼、負傷者1名。
損害額2,020万円。
- 12月18日 0時25分ころ極楽寺の住宅から出火。1棟全焼、1棟ぼや、死者1名
損害額420.4万円。
- 平成27年2月26日 10時50分ころ台の住宅から出火。1棟全焼、死者1名。
損害額590.2万円。
- 平成28年1月30日 14時29分ころ材木座の中高層建物2階から出火。2階一室全焼。
損害額2,260.6万円。
- 平成30年6月6日 15時18分ころ台の住宅から出火。1棟全焼、2棟部分焼、3棟ぼや、死者1名
損害額811万円。

鎌倉市消防機構図

平成31年（2019年）4月1日現在



事 務 分 掌

消防総務課	総務担当	<p>消防事務事業に関する企画及び調整、例規の制定改廃、事務室の配置、統計資料の収集及び編さん、文書の收受及び発送、公印の管理、会議及び行事、職員の定数及び配置、職員の任免・服務・賞罰・給与及びその他人事、職員及び団員の研修及び教養、公務災害補償、職員の福利厚生共済、消防職員委員会、消防団の庶務、職員・団員及び消防協力者の表彰、消防広報</p> <p>予算及び経理、国県の支出金の申請等、財産の管理及び保守、物品の調達・出納及び保管、貸与物件</p>
警防救急課	警防担当	<p>消防活動に関する管理、消防警防計画、水害警防管理、災害対策及び警戒警備、消防用車両の配置及び管理、消防用機械器具及び装備品の管理・研究、機関員及び安全運転管理の指導、消防・救急及び救助訓練、自衛消防隊の訓練指導の管理、消防水利の維持管理、開発事業等に対する消防上の指導、消防協定、救助活動に関する管理、火災・救助統計の作成、その他の防災及び警防救急等</p>
	救急救命担当	<p>救急統計の作成、救急活動に関する管理、メディカルコントロール体制の管理、応急手当の普及啓発活動</p>
指令情報課	指令情報第一担当 指令情報第二担当	<p>高機能消防指令センターシステム機器の管理運用、災害出動隊編成、災害及び救急出動指令、災害情報の収集及び伝達（広報）、消防用無線の運用管理、災害緊急情報伝達装置の運用管理及び防災行政用無線等の運用、無線関係団体との連絡、火災警報及び消防信号、気象観測、その他指令管制業務</p>
予防課	予防担当	<p>火災予防計画、消防相談、火災予防関係願届、火災原因調査及び損害調査並びに危険物に係わる流出等の事故の原因の調査、消防用設備等、高圧ガス、防火及び防災管理、建築同意、危険物、鎌倉市危険物安全協会との連絡及び協調、その他火災予防</p>
	査察担当	<p>防火対象物の火災予防査察指導、危険物施設の火災予防査察指導、高圧ガス施設の火災予防査察指導、その他火災予防上必要な査察指導</p>
消防署警備課	庶務第一 第二担当	<p>文書の收受及び発送、消防統計、職員の配置、職員の教養及び訓練、物品の管守</p>
	警防第一 第二担当	<p>水火災の警戒防御、救助業務、（救急業務）、警防計画、（救急救命士業務）、警防・水防訓練、消防地水利、管区員の指導、消防機械器具の整備、消防用燃料出納記録、その他災害の警防、消防団への訓練指導、機関員指名基準の運用、自衛消防隊の訓練指導</p>
	救急第一 第二担当	<p>救急業務、救急救命士業務</p>
	予防第一 第二担当	<p>火災（他の災害を含む）の予防対策及び指導並びに消防相談、火災原因調査及び損害調査、火災予防査察、危険物の規制、災害対策、その他災害予防</p>
	出張所 第一第二担当	<p>水火災の警戒防御、救助業務、警防・水防訓練、消防地水利、管区員の指導、消防機械器具の整備、消防用燃料出納記録、その他災害の警防及び予防</p>

鎌倉市の消防力の整備指針・消防水利の基準

[消防力の整備指針とは]

消防組織法第 37 条の規定に基づき、市町村の消防に必要な人員及び施設の基準として消防庁長官が勧告したものです。

鎌倉市では、地勢、道路事情、昼間人口等を勘案し、火災の予防、警戒及び鎮圧、救急業務並びに人命の救助等を行うために必要な施設及び人員を配置しています。

平成 31 年（2019 年）4 月 1 日現在

項 目	人口による 基準数	現有数
署所の数	5	8
署所の管理する消防ポンプ自動車数	8	8
消防団の管理する動力消防ポンプ数	12	28
救急自動車の数	7	8

項 目	基準数	現有数	
指揮車	2	2	
救助工作車	2	2	
はしご自動車又は屈折はしご自動車の数	2	2	
化学消防自動車の数	1	1	
人員数	職員	275	246
	団員	440	422

[消防水利の基準とは]

消防法第 20 条第 1 項の規定に基づき、消防に必要な水利の基準として消防庁長官が勧告したものです。

消防水利の基準は、市町村の消防に必要な最小限度の水利について、定めることを目的としています。

平成 31 年（2019 年）4 月 1 日現在

項 目	基準数	充足数	充足率	現有数
消防水利	1,290	1,278	99%	3,750

消 防 庁 舎 概 況

鎌倉市消防本部・大船消防署（海拔 9.0m）

所在地 鎌倉市大船 3-5-10
構造 鉄筋コンクリート 3 階
建築面積 947.80 m²
延面積 2,180.09 m²
敷地面積 2,861.09 m²
昭和 25 年 5 月 3 日
昭和 55 年 9 月 18 日 署移転
平成 27 年 4 月 1 日 本部移転
消防本部電話番号 0467(44)0119
FAX 0467(45)6665
大船消防署電話番号 0467(43)2424
FAX 0467(45)6661



鎌倉消防署（海拔 6.1m）

所在地 鎌倉市由比ガ浜 4-1-10
構造 鉄筋コンクリート地上 3 階地下 1 階
建築面積 652.33 m²
延面積 2,570.19 m²
敷地面積 1,874.49 m²
昭和 23 年 3 月 7 日
昭和 49 年 9 月 20 日 署移転
昭和 49 年 9 月 22 日 本部移転
平成 27 年 4 月 1 日 大船消防署へ本部移転
電話番号 0467(24)0119
FAX 0467(25)5158



鎌倉消防署 腰越出張所（海拔 4.4m）

所在地 鎌倉市腰越 4-9-12
構造 鉄筋コンクリート地上 3 階
建築面積 263.28 m²
延面積 632.99 m²
敷地面積 490.67 m²
昭和 23 年 3 月 7 日 設置
昭和 25 年 5 月 3 日 分署に昇格
昭和 37 年 12 月 1 日 移転
平成 4 年 4 月 1 日 改称（機構改革）
平成 29 年 3 月 1 日 改築
電話番号 0467(32)4488
FAX 0467(32)7174



鎌倉消防署 深沢出張所 (海拔 8.5m)



所在地 鎌倉市手広 1-16-12
 構造 鉄筋コンクリート 2階
 建築面積 651.85 m²
 延面積 954.43 m²
 敷地面積 1,502.69 m²
 昭和 29年 12月 1日 分遣所として設置
 昭和 38年 6月 1日 出張所に昇格
 昭和 57年 3月 23日 移転 分署に昇格
 平成 4年 4月 1日 改称 (機構改革)
 電話番号 0467(32)4090
 FAX 0467(32)7180

鎌倉消防署 浄明寺出張所 (海拔 40.4m)

所在地 鎌倉市浄明寺 6-2-7
 構造 鉄筋コンクリート 1階
 建築面積 272.81 m²
 延面積 272.81 m²
 敷地面積 1,731.12 m²
 昭和 53年 5月 1日
 電話番号 0467(25)5522
 FAX 0467(25)8122



鎌倉消防署 七里ガ浜出張所 (海拔 46.2m)

所在地 鎌倉市七里ガ浜東 1-2-5
 構造 鉄筋コンクリート一部 3階
 建築面積 204.63 m²
 延面積 491.71 m²
 敷地面積 514.60 m²
 平成 23年 4月 17日
 電話番号 0467(31)0119
 FAX 0467(31)3158



大船消防署 玉縄出張所 (海拔 12.4m)



所在地 鎌倉市玉縄 2-5-2
構造 鉄筋コンクリート 2階
建築面積 280.54 m²
延面積 433.54 m²
敷地面積 738.85 m²
昭和 48 年 4 月 11 日
電話番号 0467(44)1529
FAX 0467(44)6663

大船消防署 今泉出張所 (海拔 23.7m)



所在地 鎌倉市今泉 2-4-25
構造 鉄筋コンクリート 2階
建築面積 205.00 m²
延面積 403.14 m²
敷地面積 341.25 m²
平成 19 年 4 月 1 日
電話番号 0467(43)0119
F A X 0467(43)0162

消防総務



市一般会計歳出予算に占める消防費の割合

(千 円)

区 分 \ 年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
市 予 算 額	59,850,016	59,683,434	61,239,000
消 防 費	2,485,012	2,601,037	2,789,784
比 率 (%)	4.2	4.4	4.6

消 防 費 歳 入 予 算 (令和元年度)

(歳 入)

(千 円)

款	項	目	節	金 額
50	5 使用料 10 手数料	45 消防使用料	5 消防使用料	1,230
		15 消防手数料	5 消防手数料	514
85	25 雑 入	55 消防費収入	5 雑 入	13,693
90	5 市 債	45 消 防 債	5 消防施設整備 事業債	220,400
合 計				235,837

消 防 費 歳 出 予 算 (令和元年度)

(歳 出)

(千 円)

款	項	目	節	金 額
50	消 防 費			2,789,784
	5	消 防 費		2,459,973
		5	常備消防費	
			1 報 酬	1,059
			2 給 料	875,768
			3 職員手当等	991,623
			4 共 済 費	337,618
			8 報 償 費	290
			9 旅 費	2,027
			10 交 際 費	100
			11 需 用 費	134,292
			12 役 務 費	17,410
			13 委 託 料	73,673
			14 使用料及び 賃 借 料	12,311
			18 備品購入費	200
			19 負担金補助 及び交付金	12,253
			22 補償補填 及び賠償金	500
			27 公 課 費	849
		10	非常備消防費	75,632
			1 報 酬	15,068
			4 共 済 費	1,442
			5 災害補償費	50
			8 報 償 費	9,699
			9 旅 費	16,000
			10 交 際 費	10
			11 需 用 費	16,182
			12 役 務 費	691
			13 委 託 料	40
			14 使用料及び 賃 借 料	1,136
			19 負担金補助 及び交付金	14,923
			27 公 課 費	391
		15	消防施設費	254,179
			12 役 務 費	101
			13 委 託 料	332
			18 備品購入費	244,927
			22 補償補填 及び賠償金	8,611
			27 公 課 費	208

職員階級別状況

[昭和23年～令和元年]

年	階級別	定数	実員数	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	その他の職員
昭和	23年		72									
	24	127	93		1		3	4	14		67	4
	25	127	94		1		3	4	15		67	4
	26	127	111		1		4	5	15		81	5
	27	127	108		1		4	5	16		77	5
	28	127	106		1		2	5	16		77	5
	29	110	107		1		2	5	17		77	5
	30	110	107		1		2	5	16		78	5
	31	110	107		1		2	5	16		78	5
	32	110	102		1		2	5	14		75	5
	33	110	99		1		2	5	14		74	3
	34	110	96		1		2	5	12		73	3
	35	110	92		1		2	5	12		69	3
	36	110	100		1		2	5	12		77	3
	37	110	102			2	2	5	14		72	7
	38	113	109		1	1	3	5	14		78	7
	39	113	110		1	1	3	5	17		76	7
	40	118	112		1	1	2	5	17		79	7
	41	123	115		1	1	2	5	17		82	7
	42	129	129		1	1	3	7	20		90	7
	43	138	131		1	1	2	7	21		91	8
	44	143	134		1	1	2	7	21	22	74	6
	45	143	134		1	2	3	9	21	17	72	9
	46	144	144		1	2	3	9	23	47	48	11
	47	154	145		1	3	1	9	23	49	50	9
	48	159	154		1	3	3	12	24	45	56	10
	49	177	159		1	3	3	12	24	50	56	10
	50	177	177		1	4	3	13	28	51	66	11
	51	179	179		1	4	3	13	28	59	58	13
	52	191	191		1	3	4	13	28	60	69	13
	53	197	191		1	4	4	4	37	49	69	13
	54	205	202	1		6	4	19	46	39	72	15
	55	205	204	1	1	6	3	19	52	39	69	14
	56	209	207	1	1	5	4	18	53	55	56	14
	57	216	214	1		5	6	20	55	52	62	13
	58	216	210	1		5	6	22	56	54	57	9
	59	220	219	1	1	3	8	23	54	45	76	8
	60	220	220	1		2	4	25	56	38	87	7
	61	220	218	1		2	6	24	56	42	80	7
	62	220	220	1		2	7	24	59	46	74	7
	63	220	220	1		2	7	24	59	50	70	7
平成	元年	220	220	1		3	6	24	61	57	61	7
	2	220	219	1		6	3	25	63	57	47	7
	3	220	220	1		6	3	25	69	71	39	6
	4	220	220	1	1	7	4	33	146	13	9	6
	5	220	219	1	2	6	4	32	156	5	7	6
	6	220	220	1	2	6	4	36	150	5	10	6
	7	220	220	1	2	6	4	44	144	3	14	3
	8	220	220	1	3	10	14	38	135	11	7	1
	9	220	220	1	2	13	16	38	132	13	3	2
	10	220	219	1	2	13	18	39	127	14	3	2
	11	220	219	1	2	13	20	41	122	14	4	2
	12	220	219	1	2	13	21	46	120	8	6	2
	13	220	219	1	2	13	21	47	118	6	9	2
	14	220	218	1	2	13	21	47	110	9	13	2
	15	220	216	1	3	12	21	51	100	12	15	1

年	階級別	定数	実員数	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	その他の職員
16		220	217		4	13	22	56	91	15	14	2
17		217	213		3	14	23	60	79	17	15	2
18		217	214		3	13	28	63	71	19	16	1
19		217	221		3	13	30	61	68	21	24	1
20		217	225	1	3	12	30	61	69	23	25	1
21		217	222	1	2	13	30	59	66	29	21	1
22		238	242	1	2	13	30	56	69	32	38	1
23		238	241	1	2	13	32	58	65	35	34	1
24		238	242	1	2	13	32	55	71	45	22	1
25		238	235	1	2	12	32	50	73	43	21	1
26		238	239	1	3	12	32	44	81	46	19	1
27		238	232	1	3	12	32	44	70	50	19	1
28		238	233	1	3	12	32	43	75	47	19	1
29		238	239	1	3	12	32	42	79	43	24	3
30		238	241	1	4	10	29	45	77	44	28	3
令和元年		238	246	1	3	11	26	45	84	39	36	1

昭和36年までの消防監は、『消防監補』に読み替える。昭和23年8月1日消防職階名の改正までは、次のような階級が使用されていた。消防司令長（消防司令）・消防司令（消防士、消防機関士）・消防司令補（消防士補、消防機関士補）・消防士長（消防曹長）・消防士（消防手）（ ）は、旧階級名 平成19年から初任研修者を定数外扱いとしていることから実員数が定数を上回っている（平成25年、27年除く）。

職員の配置状況

平成31年(2019年)4月1日現在

階級別 区分		合 計	消 防 正 監	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	そ の 他 の 職 員
消防本部	消防長	1	1								
	次 長	1		1							
	消防総務課	6(12)				1	1	1(1)※1	2	(11)※2	1
	警防救急課	5			1	1	1	2			
	指令情報課	13			1	3	2	6	1		
	予防課	11			1	1	4	3	2		
鎌倉消防署	署 長	1		1							
	副署長	2			2						
	本 署	32			2	4	4	15	3	4	
	腰越出張所	20				2	4	8	4	2	
	深沢出張所	20				2	4	8	4	2	
	浄明寺出張所	20				2	4	6	4	4	
	七里ガ浜出張所	20				2	4	5	6	3	
大船消防署	署 長	1		1							
	副署長	2			2						
	本 署	39			2	5	5	13	9	5	
	玉縄出張所	20				2	5	8	2	3	
	今泉出張所	20				2	6	8	2	2	

※1 消防総務課配置の消防士長(1)名は神奈川県消防学校派遣教官のため、定数外としています。

※2 消防総務課配置の消防士(11)名は神奈川県消防学校初任教育のため、定数外としています。

職員居住区域状況

職員内訳	市 内									隣接市 (※1)	市外	計
	管 内 別											
	鎌倉	腰越	深沢	浄明寺	七里ガ浜	大船	玉縄	今泉	小計			
消防吏員	11	14	11	2	3	16	5	2	64	90	91	245
その他の職員		1							1			1
小計	11	15	11	2	3	16	5	2	65	90	91	246

注1 隣接市とは、横浜市(戸塚区・金沢区・栄区)、藤沢市、逗子市としています。

職員の階級別年齢

平成31年(2019年)4月1現在

階級別 年齢	合計	消防 正監	消防 監	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防 士	その他 の職員
平均年齢(歳)	38.3	59.0	57.0	53.5	54.7	45.9	40.1	30.8	21.9	55.0
18歳以上20歳未満	5								5	
20歳以上25歳未満	32							3	29	
25歳以上30歳未満	34						5	27	2	
30歳以上35歳未満	51					2	44	5		
35歳以上40歳未満	26				1	11	14			
40歳以上45歳未満	13				1	9	3			
45歳以上50歳未満	15			1	4	5	5			
50歳以上55歳未満	31		1	5	9	10	6			
55歳以上	39	1	2	5	11	8	7	4		1
合計	246	1	3	11	26	45	84	39	36	1

職員の階級別勤続年数

平成31年(2019年)4月1日現在

階級別 年数	合計	消防 正監	消防 監	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防 士	その他 の職員
平均勤続年数(年)	16.7	40	37.7	33.5	33.0	24.7	16.3	5.4	1.1	37.0
1年未満	20						2	4	14	
1年以上5年未満	32							10	22	
5年以上10年未満	46						22	24		
10年以上15年未満	37					8	28	1		
15年以上20年未満	27				1	10	16			
20年以上25年未満	9				1	5	3			
25年以上30年未満	11			1	4	4	2			
30年以上	64	1	3	10	20	18	11			1
合計	246	1	3	11	26	45	84	39	36	1

※ 再任用職員は、再任用後の勤続年数で含みます。

職員の教養状況（過去5年間）

年度別人員 教養別		合計	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考	
		消防 大学 校	火災調査科	3	0	1	0		1
警防科	3		0	1	1	0	1		
新任教官科	1		0	0	0	0	1		
指導救命士研修		4	—	1	1	1	1	平成27年度開始	
気管挿管実習		13	3	2	3	2	3		
薬剤投与研修		4	4	—	—	—	—		
神奈川 県消 防学 校	初任教育	39	10	5	6	8	10		
	専 科 教 育	警 防 科	5	1	1	1	1	1	
		特殊災害科	0	0	0	0	0	0	
		予防査察科	9	2	1	2	2	2	
		火災調査科	7	1	1	2	1	2	
		救 急 科	31	7	4	5	7	8	
		救 助 科	10	2	2	2	2	2	
		小型ポンプ操法	6	2	2	2	0	0	
	特 別	特別救助	0	0	0	0	0	0	
		特別幹部	5	1	1	1	1	1	
派遣教官		0	0	0	0	0	0		

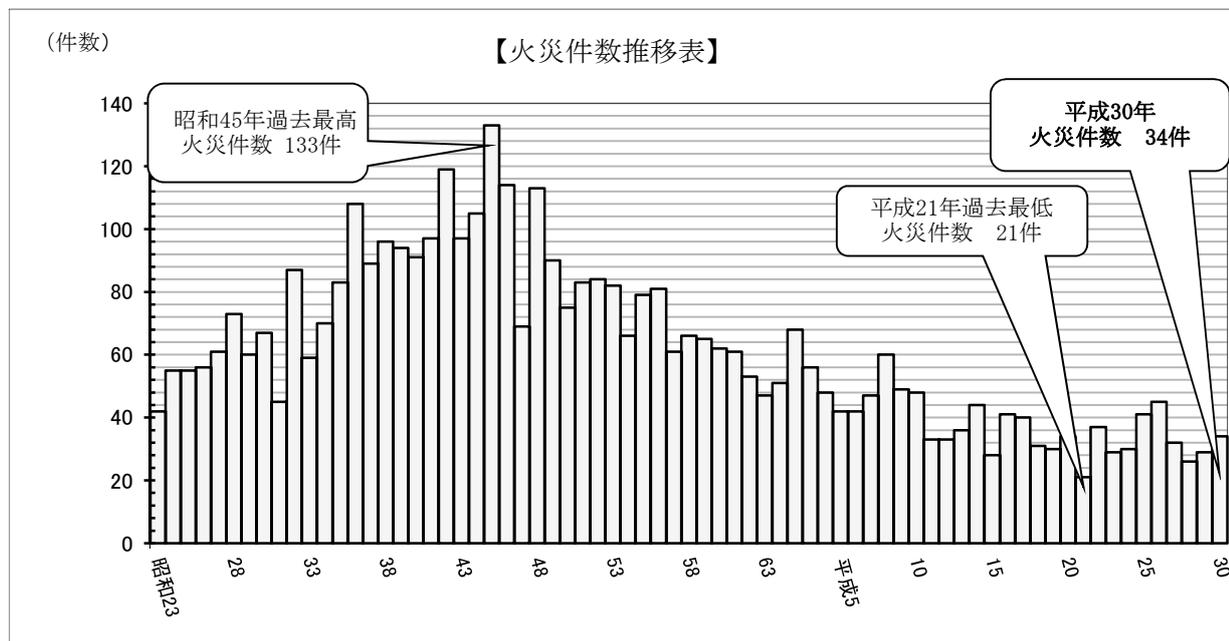
警防救急



火災件数の推移

年	人口 (10月1日)	火災 件数	建物	林野	車両	船舶	その他	死者	負傷者	年	人口 (10月1日)	火災 件数	建物	林野	車両	船舶	その他	死者	負傷者
昭和23	84,422	42	23	5			14			59	175,510	65	49	1	6		9	4	11
24		55	34	8	2		11			60	175,495	62	45	6	4		7		10
25	85,392	55	30	5	1		19			61	175,975	61	44		10		7	2	12
26	86,923	56	37	7	1		11			62	176,358	53	38	1	6		8	2	10
27	88,536	61	27	9	9		16			63	175,995	47	37	2	2		6	2	7
28	90,044	73	38	18	1		16			平成元	175,769	51	36		4		11	3	12
29	90,916	60	36	9	7		8			2	174,307	68	39		11		18	1	12
30	91,328	67	45	10	7		5			3	174,019	56	42		2	1	11	5	12
31	91,756	45	29	12			4	1		4	173,492	48	36		6		6	1	6
32	92,470	87	52	22	4		9		4	5	172,638	42	30		4		8	1	6
33	93,874	59	33	10	7		9		8	6	171,815	42	32		3		7	2	12
34	95,559	70	45	8	2		15		10	7	170,329	47	30		8		9	2	7
35	98,617	83	47	20	6		10	1	14	8	168,569	60	38	1	7		14	5	14
36	102,352	108	66	17	5		20		11	9	167,661	49	31		8		10		12
37	106,591	89	51	28	7		3		7	10	167,136	48	33	2	5		8	6	7
38	110,801	96	44	40	1		11		16	11	167,627	33(1)	23(1)		6		4	2	6
39	116,039	94	46	27	7		14	1	5	12	167,585	33	21	1	3		8		7
40	118,329	91	38	25	9		19		10	13	167,437	36	26	1	5		4	4	10
41	120,782	97	44	31	4		18	2	5	14	167,693	44	39		2		3	2	11
42	124,770	119	64	29	6		20	2	20	15	168,724	28	22	1	3		2	2	2
43	129,961	97	44	29	4		20		9	16	169,866	41	33		4		4	4	9
44	135,124	105	57	15	6		27		5	17	171,512	40	34		3		3	1	15
45	139,249	133	59	31	3		40	2	9	18	172,784	31	27		3		1	1	11
46	143,217	114	55	20	8		31	3	18	19	173,263	30	23		1		6	1	5
47	148,049	69	40	7	6		16	3	11	20	173,439	34	31		2		1	3	12
48	154,533	113	69	13	8	1	22	3	24	21	174,164	21	13				8	2	5
49	159,870	90	69	6	4		11		20	22	174,354	37	26	1	5		5	4	18
50	165,552	75	56	2	5		12	4	19	23	174,290	29(1)	21(1)	1	2		5	1	15
51	168,183	83	56	5	4		18	4	13	24	174,162	30	20		1		9	1	6
52	170,997	84	58	6	6		14	1	12	25	173,523	41	26	1	1		13	2	13
53	172,981	82	57	2	7		16	1	6	26	173,530	45	27	3	5		10	2	13
54	173,331	66	41	4	2		19	2	10	27	173,019	32	17				15	1	4
55	172,629	79	47	1	5		26	6	12	28	172,337	26	21		2		3		10
56	173,392	81	50	6	8		17	2	5	29	172,284	29	20				9		2
57	173,850	61	44	1	12		4	2	5	30	172,306	34(1)	23(1)		3		8	1	3
58	174,656	66	49		12		5	3	6										

()は爆発火災



火 災 件 数 (月別)

過去5年間

月	別	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
平	建 物	鎌倉	5	2				1			1			1	
		腰越	0												
		深沢	3								3				
		浄明寺	2				1								1
		七里が浜	3							1			1	1	
		大船	6	1		1				2			1	1	
		玉縄	4	2										1	1
		今泉	0												
	計	23	5	0	1	1	1	1	2	1	4	0	2	3	3
成	林 野	鎌倉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		腰越	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		深沢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		浄明寺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		七里が浜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		大船	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		玉縄	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		今泉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0
30	船 機	船舶	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		航空機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	そ の 他	鎌倉	1								1				
		腰越	0												
		深沢	1						1						
		浄明寺	0												
		七里が浜	1	1											
		大船	4			1	1						1	1	
		玉縄	1							1					
今泉		0													
計	8	1	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	0		
中	計	鎌倉	7	2				2			2				1
		腰越	1										1		
		深沢	5						1		3	1			
		浄明寺	2				1								1
		七里が浜	4	1						1			1	1	
		大船	10	1		2	1		2				2	2	
		玉縄	5	2						1				1	1
		今泉	0												
	計	34	6	0	2	2	2	3	2	5	1	4	4	3	
平成29年中	29	1	2	2	3	3	2	3	4	1	2	3	3		
平成28年中	26	6	2	1	1	4	2	2	3	0	2	1	2		
平成27年中	32	4	3	3	4	3	3	4	1	1	1	1	4		
平成26年中	45	9	3	5	7	1	3	4	3	2	1	3	4		

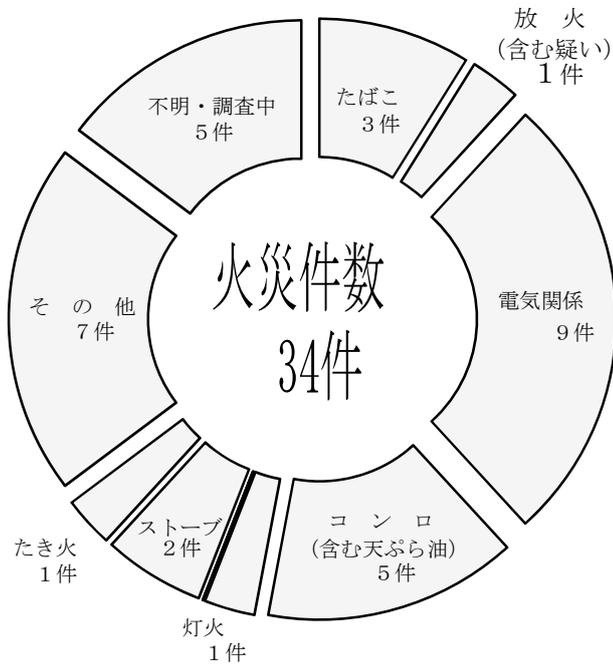
火災件数（原因別）

過去5年間

年別	たばこ	放火 (含む疑い)	電気関係	コンロ (含む天ぷら油)	たき火	子どもの火遊び	ストーブ	灯火	その他	不明・調査中	合計
平成30年中	3	1	9	5	1	0	2	1	7	5	34
平成29年中	3	3	5	3	1	1	0	0	9	4	29
平成28年中	3	3	4	9	1	0	0	0	3	3	26
平成27年中	2	7	2	4	0	0	2	0	8	7	32
平成26年中	6	6	4	6	1	1	4	0	11	6	45

【火災件数（原因別）比較表】

(平成30年中)



火災出動状況（月別）

平成30年中

月別	消防署			消防団			計	
	火災出動回数	出動隊数	出動延人員	火災出動回数	出動隊数	出動延人員	出動隊数	出動延人員
計	34	191	607	9	12	77	203	684
1月	6	22	67	0	0	0	22	67
2月	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	2	8	26	0	0	0	8	26
4月	2	18	55	1	1	5	19	60
5月	2	17	51	0	0	0	17	51
6月	3	26	86	1	3	16	29	102
7月	2	5	15	0	0	0	5	15
8月	5	25	83	1	1	2	26	85
9月	1	8	25	0	0	0	8	25
10月	4	31	93	3	3	30	34	123
11月	4	20	67	2	3	19	23	86
12月	3	11	39	1	1	5	12	44

火 災 被

年 別		焼 損 面 積		損 害 額 (千円)						
		建 物 (m ²)	林 野 (a)	建 物		林 野	車 両	船 舶	そ の 他	計
				建 築 物	収 容 物					
平成 30 年 中	1月	1		228	146					374
	2月									
	3月				3					3
	4月				2					2
	5月				1		2			3
	6月	127		8,073	61				9	8,143
	7月			1	2				17	20
	8月				20					20
	9月						707			707
	10月	9		4,326	52		2			4,380
	11月	34		63	136					199
	12月	10		214	122					336
	計	181	0	12,905	545	0	711	0	26	14,187
平成29年中		502	0	29,442	18,247	0	0	0	43	47,732
平成28年中		428	0	46,925	5,840	0	7	0	117	52,889
平成27年中		518	0	31,208	6,444	0	0	0	89	37,741
平成26年中		859	0	74,487	15,733	0	173	0	88	90,481

害 状 況

過去5年間

焼 損 棟 数 (棟)									り災世帯数 (世帯)				り災人員 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)
火 元				延 焼 棟				計	全 損	半 損	小 損	計			
全 焼	半 焼	部分 焼	ぼ や	全 焼	半 焼	部分 焼	ぼ や								
			5					5			4	4	11		
								0				0			
			1					1			1	1	1		
			1					1				0			
			1					1			1	1	4	1	
1			1			2	3	7	1		6	7	13		1
			1					1			1	1	3		
			3					3			2	2	3	2	
								0				0			
		1	1					2			2	2	6		
	1		2					3		1		1	1		
		1	2					3			2	2	4		
1	1	2	18	0	0	2	3	27	1	1	19	21	46	3	1
2	0	4	14	2	1	0	0	23	3	2	9	14	33	2	0
2	2	4	13	0	0	2	2	25	3	3	19	25	58	10	0
4	0	3	10	0	0	0	2	19	7	0	9	16	25	4	1
4	2	4	17	1	1	1	6	35	5	2	19	26	56	13	2

救 助 出 動 状 況

過去5年間

年 区分	種別	火	交	水	風	機	建	ガ	爆	事	合
		災	通	難	水	械	物	ス	発	の	計
		火	通	難	風	機	建	ガ	爆	事	合
		災	通	難	水	械	物	ス	発	の	計
		災	通	難	水	械	物	ス	発	の	計
平成 30年中	出動件数	1	7	7		1	2	1		16	35
	出動人員	47	158	161		21	40	31		327	785
	救助人員	1	6	4		1	1	1		8	22
平成 29年中	出動件数	3	13	6			3	1		19	45
	出動人員	119	284	151			67	24		355	1000
	救助人員		11	14			2	1		14	41
平成 28年中	出動件数	4	9	3			2			17	35
	出動人員	140	193	67			40			369	809
	救助人員	3	4	2						6	15
平成 27年中	出動件数	3	11	4		1				18	37
	出動人員	115	240	89		19				356	819
	救助人員	7	4	3						14	28
平成 26年中	出動件数	3	5	9						12	29
	出動人員	117	112	173						228	630
	救助人員	3	3	5						7	18

消 防 水 利 統 計

平成31年(2019年)4月1日現在

署 所 別		計	鎌倉	腰越	深沢	浄明寺	七里ガ浜	大船	玉縄	今泉
計		3,750	597	490	611	363	252	690	439	308
公設 消火栓	地下双口	8	6			1	1			
	地下単口	2,763	439	406	439	286	212	449	292	240
	小 計	2,771	445	406	439	287	213	449	292	240
私設 消火栓	地上双口	1				1				
	地上単口	49	3		4	3		38	1	
	地下双口									
	地下単口	67	6	1	14	12	2	18	12	2
	小 計	117	9	1	18	16	2	56	13	2
防 火 水 槽	公設防火水槽	293	46	47	56	29	18	35	45	17
	私設防火水槽	493	86	30	86	25	11	133	81	41
	小 計	786	132	77	142	54	29	168	126	58
そ の 他 の 水 利	貯水池	14	1	1	2	2		5	2	1
	プール	28	7	2	3	3	4	4	3	2
	井 戸	1	1							
	その他水利	29	2	1	7	1	4	8	2	4
	河 川	3		1					1	1
	海 水	1		1						
	小 計	76	11	6	12	6	8	17	8	8

乾式 連結 送水 管	計	35	2	3	4	6	6	11	2	1
	公 設	25	1		2	6	5	10	1	
	私 設	10	1	3	2		1	1	1	1

車 両 配 置 表

平成31年（2019年）4月1日現在

配置先	車 種	登録番号	車種	年式	ポンプ	定員	備 考
本 部	乗用車	横浜502ね5447	トヨタ	H16. 11		5	
〃	本部多目的車	横浜480た1284	ニッサン	H27. 9		4	
〃	本部広報車	横浜800せ1888	ミツビシ	H14. 8		7	けん引装置付
〃	査察車（1号）	横浜880あ2557	ダイハツ	H27. 1		4	1号車
〃	査察車（2号）	横浜800つ1971	ニッサン	H30. 1		8	2号車
〃	防災パトロール車	横浜800そ4171	ニッサン	H18. 11		8	
鎌 倉	はしご車	横浜800は2711	ヒノ	H29. 3		6	26メートル
〃	ポンプ車	横浜800つ3661	ヒノ	H31. 1	A-2長野	5	電動アシスト付ホースカー積載 水槽容量1100ℓ
〃	水槽車	横浜800は2103	イスゞ	H22. 3	A-2ニッキ	6	水槽容量1500ℓ
〃	指令車	横浜800つ1478	ミツビシ	H29. 9		8	けん引装置付
〃	トレーラー	横浜800る 489	クミタ	H22. 3			水難救助用
〃	救急車	横浜800つ1553	トヨタ	H29. 10		8	高規格救急車
〃	防災搬送車	横浜800つ1610	イスゞ	H29. 10		3	資機材搬送車 ゲートリフター最大積載量600kg
〃	救急車	横浜800そ8406	トヨタ	H21. 2		7	非常用救急自動車（高規格）
〃	水難救助用 水上オートバイ	第241-19855	ヤマハ	H22. 3		3	
〃	広報車	横浜80 あ2190	ミツビシ	H15. 1		4	
腰 越	ポンプ車	横浜800そ8345	イスゞ	H21. 1	A-2モリタ	5	乗車型電動式ホースカー積載
〃	救急車	横浜800ち6091	トヨタ	H26. 3		7	高規格救急車
深 沢	救助工作車	横浜800は2272	ヒノ	H24. 2	A-2ニッキ	6	
〃	救急車	横浜800ち3170	ニッサン	H24. 2		7	高規格救急車
〃	ポンプ車	横浜800そ4641	ヒノ	H19. 1	A-2モリタ	5	非常用消防自動車 乗車型電動式ホースカー積載
浄明寺	ポンプ車	横浜800ち8829	ヒノ	H28. 2	A-2ドライ	5	水槽容量600ℓ 電動アシスト付ホースカー積載
〃	救急車	横浜800ち1666	トヨタ	H23. 2		7	高規格救急車

配置先	車種	登録番号	車種	年式	ポンプ	定員	備考
七里ガ浜	ポンプ車	横浜800ち1734	イスゞ	H23. 3	A-2ﾄﾞﾗｲ	5	乗車型電動式ホースカー積載
〃	救急車	横浜800つ3728	ﾄﾞｲﾀ	H31. 2		8	高規格救急車
大 船	はしご車	横浜800は 966	ｲﾝﾌﾞｺ	H16. 1		6	37メートル
〃	ポンプ車	横浜800ち 412	ﾋﾉ	H22. 3	A-2畠山	5	乗車型電動式ホースカー積載
〃	化学車	横浜800は2380	ﾋﾉ	H25. 2	A-2ﾄﾞﾗｲ	6	水槽容量1000ℓ 薬液容量300ℓ 電動アシスト付ホースカー積載
〃	救助工作車	横浜800は1891	イスゞ	H20. 2		6	2.9 t クレーン付
〃	指令車	横浜800そ2189	ﾆｯｻﾝ	H18. 2		8	
〃	防災搬送車	横浜800そ4067	ﾋﾉ	H18.10		3	2.3 t クレーン付
〃	ポンプ車	横浜800せ3500	ﾐｯﾁﾞｼ	H15. 2	A-2ﾆｯｷ	5	非常用消防自動車 乗車型電動式ホースカー積載
〃	救急車	横浜800ち7289	ﾄﾞｲﾀ	H27. 1		7	高規格救急車
〃	救急車	横浜800ち1665	ﾄﾞｲﾀ	H23. 2		7	非常用救急自動車（高規格）
〃	多目的自動車	横浜41 け9073	ﾎﾝﾀﾞ	H 12. 5		4	
玉 縄	ポンプ車	横浜800ち6150	ﾋﾉ	H26. 3	A-2野口	5	電動アシスト付ホースカー積載
〃	救急車	横浜800ち8740	ﾆｯｻﾝ	H28. 1		7	高規格救急車
今泉	ポンプ車	横浜800そ6507	ﾋﾉ	H19.12	A-2ﾓﾘﾀ	5	乗車型電動式ホースカー積載
〃	救急車	横浜800つ 335	ﾄﾞｲﾀ	H29. 1		7	高規格救急車

車 種 別 一 覧 表

乗用車	1台	査察車	2台	防災パトロール車	1台
はしご車	2台	防災搬送車	2台	指令車	2台
ポンプ車	9台 (非常用2台を含む)	化学車	1台	水槽車	1台
救助工作車	2台	救急車	10台 (非常用2台を含む)	水難救助用オートバイ	1台
水難救助用 オートバイ用 トレーラー	1台	広報車	2台	多目的車	2台

計 39台

主な消防機器の配備状況

平成31年(2019年)4月1日現在

署所別		鎌倉消防署	腰越出張所	深沢出張所	浄明寺出張所	七里ガ浜出張所	大船消防署	玉縄出張所	今泉出張所	合計	
泡器具等	高発泡器	1					2			3	
	エアーフォーム管銃	0	1	1	0	1	4	1	1	9	
	泡原液	メガフォーム	860		900			1,040		40	2,840
		スーパーフォーム	940		300	20		680			1,940
		サーフウォーター			100		100	300			500
		フカダフロウォーター							100		100
		ファイブナイト	160	40	100	40	100	200	100		740
		フレックスパンス	80								80
照器 明具	照明装置			1			1			2	
	発電機・投光器	3	2	2	2	2	6	2	2	21	
	移動投光器	2					1			3	
測定器	有毒ガス測定器(複合器)	2	1	1	1	1	3	1	1	11	
	有毒ガス測定器(検知管式)	1		2			2			5	
	放射線測定器	1		3			4			8	
	ポケット線量計	9		5			12			26	
隊保護用具	空気呼吸器	11	3	8	3	3	18	3	3	52	
	酸素呼吸器			4			4			8	
	陽圧化学防護服			4			4			8	
	耐電衣	4		3			4			11	
	耐熱服						2			2	
	放射線防護服	4		3						7	
	簡易保護服	7	7	13	7	8	17	7	6	72	
	防じん・防毒マスク	9	8	18	7	4	19	7	8	80	
	除染シャワー	1					1			2	
救助器具	救命索発射銃			1		1	1			3	
	可搬式消火器具						2			2	
	空気式救助マット	1					1			2	
	油圧スプレッダー			1		1	1			3	
	油圧切断機			1			1	1		3	
	マット型空気ジャッキ			2			2			4	
	エンジンカッター			1			1			2	
	ガス溶断器			1			1			2	
	エアーツール			1			1			2	
	可動式ウインチ			1			1			2	
	チェーンソー	2	1	2	1	1	2	1	1	11	
	削岩機			1			1			2	
	送排風機			1			1			2	
	船外機									0	
	救命ゴムボート	2	1	1	1	1	6	2	1	15	
	折りたたみボート	1					1			2	
水難転落者引寄せ具						1			1		
検器索具	画像探索機			1			1			2	
	熱画像直視装置			1			1			2	
	夜間用暗視装置			1						1	
	地中音響探知機			1						1	
水防資器材等	つるはし	8	5	3	1	2	4	3	2	28	
	大ハンマー	6	1	4	1	2	6	1	2	23	
	鎌	6	12	10	3	2	3	1	2	39	
	スコップ	43	17	23	9	6	35	9	8	150	
	ジョレン	3	2	2	1	1	3	2	1	15	
	鍬	4	1	1	1	1	1			9	
	斧	4	2	2	1	1	8	3	3	24	
	なた	3	1	1	1	2	3	3	2	16	
	鋸	8	5	7	2	3	6	4	4	39	
	ボルトカッター	5	2	5	2	1	7	1	2	25	
	一輪車	2		1	1		1	1		6	
	土のう袋	180			260	32	197	40	35	744	
	土のう袋(土入り)	99	30	121	92	60	208	101	53	764	
	鉄杭	106	40	48	32	10	63	84	39	422	

消防相互応援に関する協定等

名 称	締結 (制定) 年月日	締結 (制定) 内容	締結 (関係) 先
神奈川県下消防相互応援協定	平成 29 年 4 月 1 日施行 (昭和 50 年 7 月 25 日締結)	火災やその他の災害が発生したとき、協定消防機関相互の消防力を活用し、被害を最小限度に防止することを目的とする。	県下 23 消防機関
神奈川県内消防広域応援実施計画	平成 28 年 4 月 1 日施行 (平成 2 年 7 月 31 日制定の神奈川県消防広域応援基本計画については廃止)	県内における大規模災害又は特殊災害発生による非常事態時に県及び県内消防機関が一致団結し区域を越え災害による被害を最小限に抑えることを目的とする。	県下 23 消防機関、 神奈川県
神奈川県下消防相互応援協定に基づく航空機特別応援実施要領	平成 29 年 4 月 1 日 (昭和 57 年 5 月 12 日施行)	災害発生地の市町が他の市町による回転翼航空機を用いた消防に関する応援を要請しようとする場合に、当該応援が円滑、かつ、迅速に行われるよう要請手続きその他必要な事項について定めることを目的とする。	県下 23 消防機関
災害時における相互応援に関する協定	平成 18 年 8 月 18 日締結	姉妹都市間において、災害が発生した場合に、被災市の要請にこたえ、応急対策及び復旧対策について相互に応援することを目的とする。	長野県上田市
	平成 7 年 9 月 1 日締結		栃木県足利市

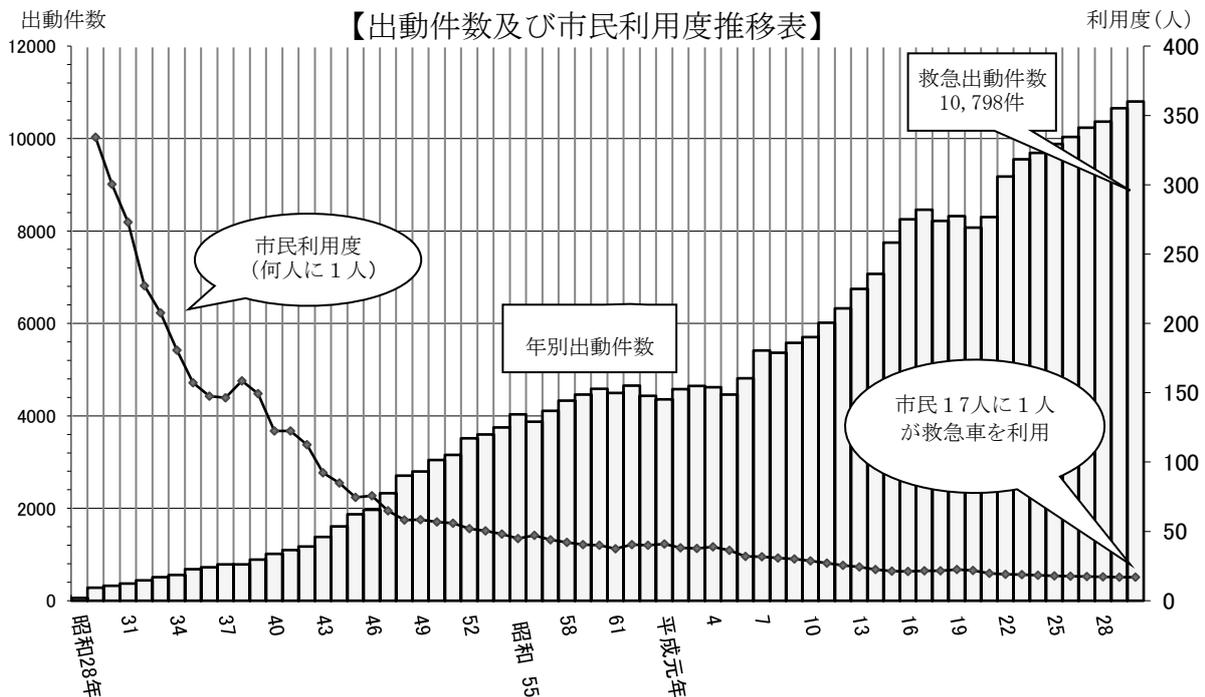
高層建築物等ヘリコプター緊急離着陸場等

平成 31 年 (2019 年) 4 月 1 日現在

建 物 名 称	緊急救助スペース
三菱電機(株)情報技術総合研究所東部第 2 研究棟	100 m ²
医療法人 沖縄徳洲会 湘南鎌倉総合病院	400 m ²

救 急 出 動 の 推 移

年	人口 (10月1日)	出動件数 (件)	搬送人員 (人)	市民利用度 (何人に1人)	年	人口 (10月1日)	出動件数 (件)	搬送人員 (人)	市民利用度 (何人に1人)
29	90,916	283	272	334	62	176,358	4,653	4,696	38
30	91,328	325	304	300	63	175,995	4,433	4,347	40
31	91,756	374	336	273	平成元	175,769	4,354	4,273	40
32	92,470	438	407	227	2	174,307	4,578	4,495	41
33	93,874	510	452	208	3	174,019	4,644	4,570	38
34	95,559	561	529	181	4	173,492	4,617	4,608	38
35	98,617	683	627	157	5	172,638	4,460	4,445	39
36	102,352	723	694	147	6	171,815	4,812	4,731	36
37	106,591	785	728	146	7	170,329	5,415	5,313	32
38	110,801	783	699	159	8	168,569	5,368	5,320	32
39	116,039	890	777	149	9	167,661	5,577	5,455	31
40	118,329	1,011	966	122	10	167,136	5,707	5,567	30
41	120,782	1,095	987	122	11	167,627	6,016	5,835	29
42	124,770	1,174	1,109	113	12	167,585	6,329	6,157	27
43	129,961	1,379	1,408	92	13	167,437	6,744	6,545	26
44	135,124	1,607	1,593	85	14	167,693	7,069	6,872	24
45	139,249	1,868	1,869	75	15	168,724	7,746	7,506	22
46	143,217	1,968	1,894	76	16	169,866	8,255	7,947	21
47	148,049	2,327	2,282	65	17	171,512	8,459	8,107	21
48	154,533	2,705	2,653	58	18	172,784	8,218	7,969	22
49	159,870	2,799	2,737	58	19	173,263	8,325	7,998	22
50	165,552	3,043	2,918	57	20	173,439	8,070	7,713	22
51	168,183	3,152	3,008	56	21	174,164	8,302	7,952	22
52	170,997	3,515	3,289	52	22	174,354	9,179	8,787	20
53	172,981	3,594	3,426	50	23	174,290	9,552	9,134	19
54	173,331	3,751	3,605	48	24	174,162	9,687	9,212	19
55	172,629	4,030	3,854	45	25	173,523	9,886	9,392	18
56	173,392	3,875	3,675	47	26	173,530	10,037	9,629	18
57	173,850	4,111	3,964	44	27	172,902	10,232	9,757	18
58	174,656	4,327	4,156	42	28	172,337	10,368	9,857	17
59	175,510	4,463	4,330	41	29	172,284	10,656	10,032	17
60	175,495	4,586	4,429	40	30	172,306	10,798	10,097	17
61	175,975	4,492	4,385	40					



救 急 出 動 状 況 (月別)

平成30年中

年 別 月 別	区 分	計	救 急 事 故 種 別										
			火災	自然 災害	水難	交通 事故	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自損 行為	急病	その他
年間	出動件数	10,798	4	5	13	527	69	40	2,047	49	48	7,222	774
	取扱件数	10,040	3	5	1	505	68	40	1,939	41	33	6,636	769
	搬送人員	10,097	3	5	1	541	68	40	1,948	44	33	6,645	769
1月	出動件数	1,021	0	0	1	36	2	3	189	8	7	694	81
	取扱件数	947	0	0	0	34	2	3	178	6	4	639	81
	搬送人員	953	0	0	0	37	2	3	179	6	4	641	81
2月	出動件数	881	0	0	2	41	3	4	164	3	1	584	79
	取扱件数	820	0	0	0	39	3	4	158	2	1	535	78
	搬送人員	824	0	0	0	43	3	4	158	2	1	535	78
3月	出動件数	902	0	0	0	46	5	6	179	3	3	588	72
	取扱件数	827	0	0	0	45	5	6	168	3	2	527	71
	搬送人員	830	0	0	0	47	5	6	169	3	2	527	71
4月	出動件数	777	0	0	0	47	6	1	145	2	3	507	66
	取扱件数	729	0	0	0	46	6	1	139	1	3	468	65
	搬送人員	734	0	0	0	51	6	1	139	1	3	468	65
5月	出動件数	821	1	1	0	38	10	5	150	3	1	563	49
	取扱件数	768	1	1	0	37	10	5	140	3	0	522	49
	搬送人員	769	1	1	0	37	10	5	141	3	0	522	49
6月	出動件数	851	1	0	1	40	9	6	173	5	9	540	67
	取扱件数	800	0	0	0	36	9	6	162	5	8	508	66
	搬送人員	805	0	0	0	38	9	6	163	5	8	510	66
7月	出動件数	982	0	0	0	42	9	7	151	4	4	698	67
	取扱件数	908	0	0	0	39	8	7	145	4	1	637	67
	搬送人員	911	0	0	0	41	8	7	145	4	1	638	67
8月	出動件数	984	2	2	3	53	3	3	178	6	6	668	60
	取扱件数	913	2	2	1	49	3	3	171	5	5	612	60
	搬送人員	917	2	2	1	52	3	3	171	6	5	612	60
9月	出動件数	840	0	1	5	34	9	0	167	4	4	562	54
	取扱件数	790	0	1	0	33	9	0	161	4	2	526	54
	搬送人員	797	0	1	0	35	9	0	164	5	2	527	54
10月	出動件数	922	0	1	1	57	3	3	189	3	4	605	56
	取扱件数	858	0	1	0	55	3	3	176	1	3	561	55
	搬送人員	865	0	1	0	59	3	3	177	1	3	563	55
11月	出動件数	851	0	0	0	49	7	2	160	4	3	567	59
	取扱件数	800	0	0	0	49	7	2	153	4	2	524	59
	搬送人員	802	0	0	0	51	7	2	153	4	2	524	59
12月	出動件数	966	0	0	0	44	3	0	202	4	3	646	64
	取扱件数	880	0	0	0	43	3	0	188	3	2	577	64
	搬送人員	890	0	0	0	50	3	0	189	4	2	578	64

救 急 出 動 状 況 (地域別)

平成30年中

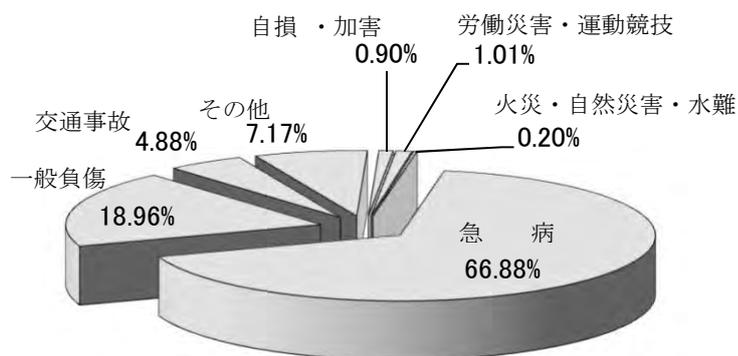
区 分	計	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	その他			
												転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 器 材 搬 送	そ の 他
計	10,798	4	5	13	527	69	40	2,047	49	48	7,222	770	0	0	4
出 場 先 数	小町	456	0	0	0	20	8	1	99	6	1	236	85	0	0
	大町	310	0	0	0	16	1	0	55	2	1	206	29	0	0
	扇ガ谷	116	0	0	0	6	0	0	30	1	0	78	1	0	0
	材木座	360	0	1	5	12	1	0	64	0	5	233	38	0	0
	由比ガ浜	336	0	0	1	28	2	1	70	2	4	198	30	0	0
	御成町	159	1	1	0	10	2	1	33	0	0	107	4	0	0
	笹目町	29	0	0	0	1	0	2	7	0	0	19	0	0	0
	佐助	67	0	0	0	5	2	0	12	0	0	48	0	0	0
	腰越	479	0	0	0	30	3	0	98	4	1	291	52	0	0
	津	156	0	0	0	0	0	1	37	2	0	112	4	0	0
	西鎌倉	191	0	1	0	6	1	0	26	0	1	152	4	0	0
	七里ガ浜	91	0	1	3	6	0	1	23	1	2	54	0	0	0
	七里ガ浜東	240	0	0	0	23	2	4	54	0	1	150	6	0	0
	津西	139	0	0	0	1	0	0	38	1	1	96	2	0	0
	手広	303	1	0	0	21	0	6	52	0	1	214	8	0	0
	稲村ガ崎	223	0	0	0	9	0	0	40	0	2	171	0	0	0
	梶原	345	0	0	0	12	3	2	69	2	1	216	40	0	0
	寺分	196	0	0	1	7	1	1	35	0	0	151	0	0	0
	上町屋	226	0	0	0	7	3	1	32	0	0	183	0	0	0
	笛田	402	1	0	0	19	4	0	67	0	1	234	76	0	0
	常盤	197	0	0	0	16	1	0	39	0	0	137	4	0	0
	鎌倉山	105	0	1	0	9	0	0	13	0	0	65	17	0	0
	長谷	229	0	0	2	18	3	0	36	1	1	147	21	0	0
	坂ノ下	87	0	0	0	10	0	0	23	1	1	52	0	0	0
	極楽寺	102	0	0	0	2	0	0	24	0	0	76	0	0	0
	西御門	49	0	0	0	1	1	0	9	0	0	38	0	0	0
	雪ノ下	228	0	0	0	16	1	2	51	2	0	149	6	0	0
	十二所	86	0	0	0	9	1	0	21	1	1	50	3	0	0
	浄明寺	246	0	0	0	5	1	0	45	0	2	193	0	0	0
	二階堂	122	0	0	1	2	0	1	28	0	0	90	0	0	0
	山ノ内	224	0	0	0	15	0	3	54	0	1	150	1	0	0
	小袋谷	154	0	0	0	12	0	0	18	0	1	107	15	0	0
	大船	1,359	0	0	0	50	12	2	281	16	6	827	165	0	0
	高野	28	0	0	0	0	1	1	9	0	0	17	0	0	0
岡本	480	0	0	0	20	1	1	82	1	0	281	94	0	0	
玉縄	204	0	0	0	7	2	2	40	1	0	147	5	0	0	
植木	240	0	0	0	13	0	0	35	0	1	191	0	0	0	
城廻	142	0	0	0	4	1	0	20	0	0	117	0	0	0	
関谷	190	0	0	0	17	2	0	27	1	0	143	0	0	0	
山崎	320	0	0	0	12	2	1	48	1	2	204	50	0	0	
台	412	1	0	0	25	2	2	62	3	2	310	5	0	0	
岩瀬	348	0	0	0	14	4	4	56	0	4	264	2	0	0	
今泉	165	0	0	0	7	0	0	27	0	1	130	0	0	0	
今泉台	247	0	0	0	1	1	0	58	0	3	182	2	0	0	
市 外	10	0	0	0	3	0	0	0	0	0	6	1	0	0	

救急出動状況（時間別）

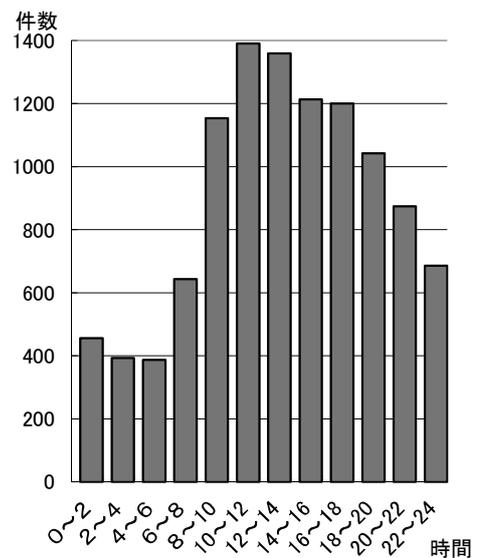
平成30年中

時間別	計	救急事故種別										
		火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
合計	10,798	4	5	13	527	69	40	2,047	49	48	7,222	774
0～2	456	0	1	0	8	0	0	76	6	3	347	15
2～4	393	0	0	0	8	3	0	50	6	3	312	11
4～6	387	0	0	0	7	1	0	57	2	4	309	7
6～8	643	0	0	0	44	2	0	108	0	2	469	18
8～10	1,154	0	2	3	65	13	3	218	1	5	788	56
10～12	1,391	0	0	1	85	15	9	253	2	5	847	174
12～14	1,359	0	0	5	62	6	5	302	1	3	834	141
14～16	1,213	2	2	2	65	12	8	252	6	6	749	109
16～18	1,200	0	0	1	75	8	10	239	1	5	750	111
18～20	1,042	1	0	1	59	3	2	212	6	7	694	57
20～22	874	1	0	0	28	4	3	167	10	2	621	38
22～24	686	0	0	0	21	2	0	113	8	3	502	37

【救急事故種別の割合】



【時間別救急件数】



搬送人員状況（程度別・収容医療機関別）

平成30年中

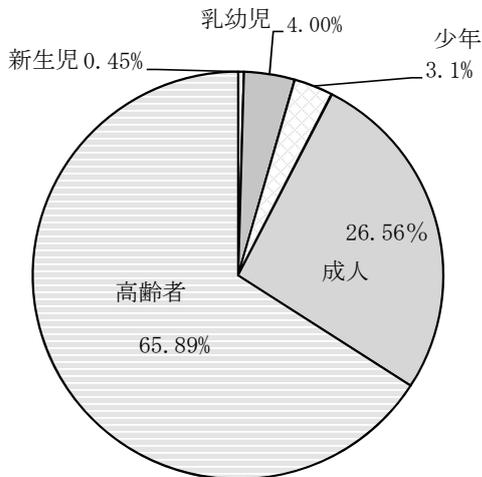
区 分		合 計	火 災	自然災害	水 難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加 害	自損行為	急 病	その他	
搬 送 人 員 合 計		10,097	3	5	1	541	68	40	1,948	44	33	6,645	769	
傷 病 程 度	死 亡	106	0	0	0	2	0	0	11	0	10	83	0	
	重 症	715	0	0	1	7	5	0	53	2	6	525	116	
	中 等 症	5,098	0	1	0	174	30	7	742	7	9	3,568	560	
	軽 症	4,177	3	4	0	358	33	33	1,142	35	8	2,469	92	
	そ の 他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
収 容 医 療 機 関	市 内	湘南鎌倉総合病院	7,106	3	3	1	342	51	38	1,370	31	29	4,790	448
		大船中央病院	1,250	0	0	0	74	4	1	239	8	3	878	43
		湘南記念病院	303	0	0	0	40	1	1	78	1	0	179	3
		鎌倉ヒロ病院	82	0	1	0	4	3	0	25	0	0	48	1
		清川病院	58	0	0	0	2	0	0	7	0	0	45	4
		ふれあい鎌倉ホスピタル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		鎌倉病院	211	0	1	0	51	9	0	98	2	0	46	4
		鈴木病院	35	0	0	0	1	0	0	10	0	0	21	3
		その他の病医院（接骨院等含む）	31	0	0	0	2	0	0	6	0	0	21	2
	市 外	湘南藤沢徳洲会病院	60	0	0	0	2	0	0	6	0	0	29	23
		藤沢市民病院	236	0	0	0	5	0	0	24	1	0	147	59
		藤沢脳神経外科病院	20	0	0	0	3	0	0	4	0	0	9	4
		横浜栄共済病院	376	0	0	0	11	1	0	52	0	1	258	53
		国立病院機構横浜医療センター	62	0	0	0	1	0	0	5	1	0	30	25
		横浜南共済病院	23	0	0	0	2	0	0	5	0	0	12	4
		済生会横浜市南部病院	53	0	0	0	0	0	0	8	0	0	22	23
		横浜市立大学付属病院（福浦）	24	0	0	0	0	0	0	1	0	0	10	13
		横浜市大センター病院（浦舟）	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	11
		県立こども医療センター	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	8
		葉山ハートセンター	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	6
市外その他の病医院	129	0	0	0	1	0	0	9	0	0	87	32		

搬 送 人 員 状 況 (年 齢 別)

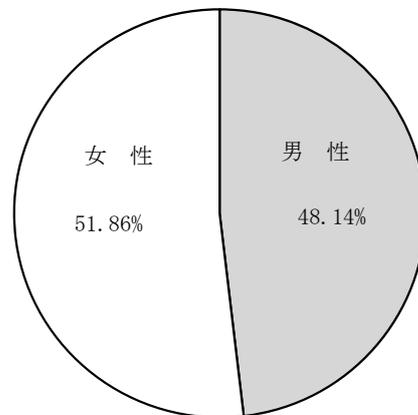
平成30年中

年齢別	性別		計	救 急 事 故 種 別										
				火	自	水	交	労	運	一	加	自	急	そ
	災	然		難	通	働	動	般	害	損	病	の		
合 計	4,861	5,236	10,097	3	5	1	541	68	40	1,948	44	33	6,645	769
新生児 (生後28日以内)	22	24	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	42
乳幼児 (29日以上～7歳未満)	230	174	404	0	0	0	14	0	0	93	1	0	264	32
少 年 (7歳以上～18歳未満)	175	137	312	1	0	0	35	1	32	45	1	4	179	14
成 人 (18歳以上～65歳未満)	1,395	1,287	2,682	1	1	1	369	55	5	357	35	17	1,645	196
高齢者 (65歳以上)	3,039	3,614	6,653	1	4	0	123	12	3	1,453	7	12	4,553	485

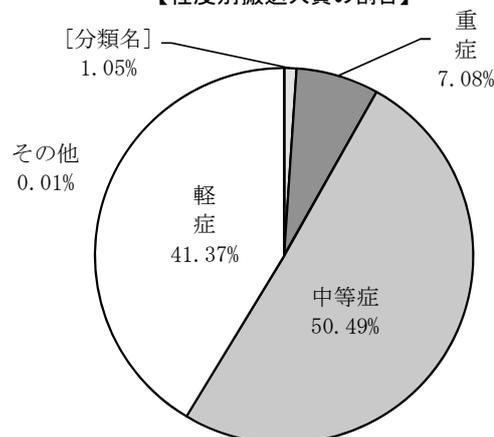
【年齢別搬送人員の割合】



【男女別搬送人員の割合】



【程度別搬送人員の割合】



救命講習等実施状況

区分	普通救命講習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		上級救命講習		救命入門コース		合 計	
	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数
6年中～ 15年中	428	9,923	22	553			450	10,476
16年中	84	1,582	2	45			86	1,627
17年中	79	1,886	3	29			82	1,915
18年中	138	3,069	3	88			141	3,157
19年中	152	3,446	11	308			163	3,754
20年中	146	3,704	13	346			159	4,050
21年中	123	3,068	10	287			133	3,355
22年中	150	4,187	10	260			160	4,447
23年中	156	3,961	10	275			166	4,236
24年中	139	3,940	7	187	14	405	160	4,532
25年中	156	4,080	6	137	24	601	186	4,818
26年中	142	3,819	7	156	16	379	165	4,354
27年中	133	3,512	7	135	20	445	160	4,092
28年中	133	3,451	6	115	23	549	162	4,115
29年中	128	3,288	8	135	19	446	155	3,869
30年中	138	3,436	8	155	21	576	167	4,167
合 計	2,425	60,352	133	3,211	137	3,401	2,695	66,964

救命の連鎖



予防

早期認識と通報

一次救命処置

二次救命処置と
心肺再開後の集中治療

急変した傷病者を救命し、社会復帰するために必要となる一連の行為を「救命の連鎖」と言います。「救命の連鎖」を構成する4つの輪が迅速につながると救命の効果が高まります。

※平成24年度から小児・乳幼児に対応した普通救命講習Ⅲを実施しています。

主な救急資機材の配置状況

署 所 別		鎌倉	腰越	深沢	浄明寺	七里ガ浜	大船	玉縄	今泉
観 察 用 資 機 材	除細動器 (AED)	3	2	2	2	2	4	2	2
	患者モニター	2	1	1	1	1	2	1	1
	パルスオキシメーター	2	1	1	1	1	2	1	1
呼 吸 循 環 管 理 資 機 材	人工呼吸器 (手動)	3	2	2	2	2	3	2	2
	人工呼吸器 (自動)	1	1	1	1	1	2	1	1
	携帯用吸引器	2	1	1	1	1	2	1	1
	喉頭鏡	2	1	1	1	1	2	1	1
固 定 搬 送 用 資 機 材	減圧式固定具	2	1	1	1	1	2	1	1
	頸部固定具	2	1	1	1	1	2	1	1
	全身固定ボード	3	1	2	1	1	3	1	1
特 定 行 為 等 資 機 材	輸液セット	2	1	1	1	1	2	1	1
	食道閉鎖式エアウェイ等	2	1	1	1	1	2	1	1
	気管挿管セット	2	1	1	1	1	2	1	1
そ の 他 の 資 機 材	リングカッター	2	1	1	1	1	2	1	1
	トリアージシート	1		1			1		
	防刃ベスト	6	3	6	3	3	12	3	3
	腰痛防止ベルト	9	3	5	3	3	11	6	6
	心肺蘇生訓練人形	8		8			10		

AED



全身固定ボード



AED設置場所(公共施設)

平成31年(2019年)4月1日現在

設置場所		設置場所		設置場所	
1	鎌倉市役所 1階ロビー	28	台在宅福祉センター	55	由比ガ浜こどもセンター
2	鎌倉市役所 2階議会事務局	29	鎌倉市立第一小学校	56	あおぞら園
3	大船行政センター	30	鎌倉市立第二小学校	57	二階堂子ども会館
4	玉縄行政センター	31	鎌倉市立御成小学校	58	長谷子ども会館
5	深沢行政センター	32	鎌倉市立稲村ヶ崎小学校	59	西鎌倉子ども会館
6	腰越行政センター	33	鎌倉市立七里ガ浜小学校	60	深沢子ども会館
7	鎌倉生涯学習センター※	34	鎌倉市立腰越小学校	61	富士塚子ども会館
8	中央図書館	35	鎌倉市立西鎌倉小学校	62	七里ガ浜子ども会館
9	鎌倉体育館	36	鎌倉市立深沢小学校	63	大船子ども会館
10	大船体育館	37	鎌倉市立富士塚小学校	64	小坂子ども会館
11	鎌倉武道館	38	鎌倉市立山崎小学校	65	山崎子ども会館
12	鎌倉芸術館	39	鎌倉市立小坂小学校	66	岩瀬子ども会館
13	鎌倉市福祉センター	40	鎌倉市立玉縄小学校	67	玉縄子ども会館
14	鎌倉市教養センター	41	鎌倉市立植木小学校	68	植木子ども会館
15	名越やすらぎセンター	42	鎌倉市立関谷小学校	69	だいいち子どもの家
16	今泉さわやかセンター	43	鎌倉市立大船小学校	70	おなり子どもの家
17	玉縄すこやかセンター	44	鎌倉市立今泉小学校	71	いなむらがさき子どもの家
18	腰越なごやかセンター	45	鎌倉市立第一中学校	72	こしごえ子どもの家
19	鎌倉中央公園	46	鎌倉市立第二中学校	73	にしかまくら子どもの家
20	見田記念体育館	47	鎌倉市立御成中学校	74	ふかさわ子どもの家
21	たまなわ交流センター	48	鎌倉市立腰越中学校	75	せきや子どもの家
22	玉縄青少年会館	49	鎌倉市立深沢中学校	76	いまいずみ子どもの家
23	鎌倉青少年会館 (フレンドリー鎌倉)	50	鎌倉市立手広中学校	77	笛田リサイクルセンター
24	鎌倉文学館	51	鎌倉市立大船中学校	78	川喜多映画記念館
25	鎌倉国宝館	52	鎌倉市立玉縄中学校	79	名越クリーンセンター
26	鎌倉海浜公園プール	53	鎌倉市立岩瀬中学校	80	今泉クリーンセンター
27	鐺木清方記念美術館	54	深沢こどもセンター		

※鎌倉市生涯学習センターは現在改修中のため、AEDは鎌倉郵便局に移設しています。



救急協力事業所



消防本部では、救急事案が発生した場合に消防機関への通報やAED（自動体外式除細動器）を用いた心肺蘇生法などの適切な応急手当、救急隊への支援・協力を積極的に行うことができる事業所を認定しています。

平成31年（2019年）4月1日現在

1	カドキホール	36	今泉台町内会
2	鎌倉スポーツクラブ	37	東京ガスエネパーク株式会社東京ガスライフバル湘南鎌倉店
3	鎌倉女子大学大船キャンパス	38	東急ストア
4	鎌倉女子大学岩瀬キャンパス	39	株式会社鎌倉ファミリー
5	湘南モノレール大船駅	40	鎌倉乃えん（鎌倉ケアホームえん）
6	株式会社ルミネウイング大船	41	ルネサンスリハビリセンター大船
7	江ノ島電鉄株式会社	42	神奈川県鎌倉保健福祉事務所
8	株式会社イトーヨーカ堂大船店	43	宗教法人日本キリスト教団鎌倉教会
9	鎌倉学園中学校高等学校	44	ドコモショップ鎌倉店
10	由比ガ浜地下駐車場	45	清泉小学校
11	三菱電機ライフサービス株式会社湘南支社	46	特養鎌倉静養館
12	鎌倉プリンスホテル	47	東日本旅客鉄道株式会社鎌倉駅
13	ダイヤモンド鎌倉別邸ソサエティ	48	鎌倉婦人子供会館
14	カトリック雪ノ下教会	49	グラングラデ深沢・鎌倉
15	コーナン鎌倉大船モール	50	パタゴニア・インターナショナル・インク
16	鎌倉パークホテル	51	深沢幼稚園・保育園アワーキッズ鎌倉寺分
17	長谷寺	52	保育園アワーキッズ鎌倉本園
18	建長寺	53	徳洲会スポーツセンターかまくら
19	三菱電機株式会社情報技術総合研究所	54	グラングラデ鎌倉山
20	富士見町町内会	55	湘南・横浜若者サポートステーション
21	鶴岡八幡宮	56	株式会社ノア企画・ノア鎌倉ビル
22	鎌倉宮	57	日本私立学校振興共済事業団鎌倉保養所あじさい荘
23	電気化学工業株式会社大船工場	58	鎌倉清和由比
24	財団法人鎌倉市公園協会	59	鎌倉彫協同組合
25	東日本旅客鉄道株式会社大船駅	60	株式会社大倉製作所
26	株式会社マツヤ	61	鎌倉宮カントリーテニスクラブ
27	シンロイヒ株式会社	62	小町商店会
28	カーブス大船	63	クロスハート十二所・鎌倉
29	ミハル通信株式会社	64	福村歯科
30	鎌倉税務署	65	相鉄フレッサイン鎌倉大船
31	株式会社ベネッセスタイルケア鎌倉山	66	おおぞら幼稚園
32	電通鎌倉研修所	67	又吉歯科
33	玉縄幼稚園	68	神奈川県立大船高等学校
34	障害福祉サービス事務所工房ひしめき	69	湘南鎌倉人工関節センター
35	二階堂親和会	70	和風レストランとんでん北鎌倉店

71	株式会社富士住建鎌倉営業所	106	ケアホーム鎌倉深沢
72	極真会館大船道場	107	神奈川県企業庁鎌倉水道営業所
73	しろた歯科	108	Fit Care MART鎌倉今泉店
74	ホテルメッツかまくら大船	109	北鎌倉商栄会
75	鎌倉二葉会館	110	カトリック横浜司教区大船教会
76	介護老人福祉施設ラペ鎌倉	111	ショートステイパイル
77	鎌倉パブリックゴルフ場	112	グループホームふあいと今泉の里
78	鎌倉カントリークラブ	113	出張美容 LOCO～ロコ～
79	株式会社江ノ電バス横浜鎌倉営業所	114	成福寺
80	岩瀬保育園	115	レーベンスガルテン山崎自治会
81	ココファンメゾン鎌倉山	116	鎌倉広町緑地管理事務所
82	特別養護老人ホームふれあいの泉	117	グループホーム小袋谷3・4
83	こもれび山崎温水プール	118	社会福祉法人つきかけ会明照フラワーガーデン
84	報国寺	119	林歯科クリニック
85	クリエイトSD鎌倉材木座店		
86	鎌倉女学院		
87	エルダーホームケア西鎌倉		
88	円覚寺		
89	きしろホーム		
90	葬祭の板橋 奉斎殿		
91	鎌倉児童ホーム		
92	鎌倉ローンテニス倶楽部		
93	神奈川トヨタ自動車株式会社鎌倉店		
94	スタンレーサーフサイド		
95	鎌倉霊園		
96	寺分保育園		
97	神奈川トヨタ自動車株式会社大船店		
98	龍口明神社		
99	株式会社横浜銀行鎌倉支店		
100	野村証券株式会社鎌倉支店		
101	巴機械工業株式会社		
102	神奈川県水難救済会 腰越救難所		
103	鎌倉早見美容専門学校		
104	北鎌倉女子学園中学校高等学校		
105	かいひん荘鎌倉		

指令情報



高機能消防指令センター機器・通信機器一覧表

平成31年(2019年)4月1日現在

高機能消防指令センター					
種 別		数 量	種 別		数 量
指 令 装 置	指令台	3台	気象観測装置		2式
	指揮台	1台	気象webサーバー(市イントラ公開用)		1式
	無線統制台(指令台機能)	1台	市民案内(テレホンサービス)		1式
	指令制御装置	1式	災害緊急情報伝達装置		1式
	自動出動指定装置	1式	Eメール指令装置		1式
	地図検索装置	1式	Eメール119受信コンピュータ (補助用携帯電話器含む)		1式
	非常用指令装置(指令制御装置機能)	1式	システム監視装置		1式
	長時間録音装置	1式	支援情報制御装置		1式
	署所端末装置	8式	支援情報端末装置		60台
	無線受令装置	7式	119番通報補助電話		2台
	署所放送用設備	8式	無停電電源設備		9式
	指令伝送装置	8式	直流電源装置		1式
	順次指令装置	1式	非常用発動発電機		5式
	音声合成装置	2式	出動車両運用管理装置		1式
総 合 表 示 盤	車両運用表示盤	各1式	車両運用端末装置		30式
	支援情報表示盤		ネットワーク装置		1式
	多目的情報表示盤		セキュリティ装置		1式
	表示盤制御装置		統合型位置情報システム		1式
情報共有webサーバー		1台	表示盤端末装置		1式
情報共有端末		11台			
現場映像情報伝送装置		4式	駆込み通報装置		8式

通 信 機 器					
種 別		数 量	種 別		数 量
119 専 用 回 線	NTT加入電話	ISDN 4回線	テレホンサービス用加入回線 (情報提供は同時20通話可能)		1回線
	IP電話(加入電話に重畳) (NTT東日本・KDDI・ソフトバンクテレコム・アールテリア)		災害緊急情報伝達装置用回線		1回線
	携帯電話 (NTTドコモ・au・ソフトバンクモバイル・ワイモバイル)	ISDN 2回線	電 話 交 換 機		8台
	他市消防局(本部)転送用	ISDN 2回線	出退表示盤(メッセージボード)		5台
	BS回線・非常用回線	各1回線	NTT 専 用 回 線	指令書・事務処理用回線	
本部一般加入回線(大船消防署含む)	ISDN 5回線	内線専用回線		9回線	
本部ダイヤルイン番号	25回線	防災行政用無線専用回線		1回線	
本部一般内線回線(PHS含む)	77回線	インターネット回線		1回線	
指令台用加入回線	2回線	119番FAX通報システム用電話器		1台	
指令台用内線回線	2回線	車載等携帯電話		21台	
署所一般加入回線(鎌倉のみISDN2回線)	8回線	車載等PHS		25台	
署所一般内線回線(PHS含む)	47回線	事務用FAX回線		10回線	

そ の 他						
種 別		数 量	種 別		数 量	
市	鎌倉市防災行政用無線	1式	国	J-ALERT(全国瞬時警報システム)		1式
	災害対策用専用回線	1回線				
	計測震度計用回線	1回線	県	県防災行政通信網端末		1式
	消防活動用ドローン	2機				

種 別		局数	配 置 場 所	
固 定 局		2局	消防本部・野村	活動波1.2 各1式 主運用波 1式
基 地 局		2局	野村総研跡地	統制波1.2.3 各1式 防災相互波 1式
			七里ガ浜出張所	活動波3 1式
陸 上 移 動 局	可 搬 型	5W	2局	鎌倉消防署 1台 大船消防署 1台
	車 載 型	5W	34局	消防本部 5台 各 署 所 29台
	携 帯 型	1W	18局	消防本部(指令情報課) 2台 各 署 所 16台
	署活動用携帯型	1W	38局	消防本部(指令情報課) 2台 各 署 所 36台
	卓 上 型	5W	7局	各 署 所 7台

無線機（陸上移動局）及び車載等携帯電話配置場所

配 置 場 所	可搬型	車 載 型	携 帯 型	署活動用	卓上型	携 帯 電 話	
	5W	5W	1W	1W	5W		
消防本部		5台	2台	2台		1台	警防救急課
鎌倉消防署	1台	7台	5台	8台	1台	3台	鎌倉隊・鎌倉救急隊 指令車(水上バイク)
腰越出張所		2台	1台	3台	1台	2台	腰越隊・腰越救急隊
深沢出張所		3台	1台	3台	1台	2台	鎌倉救助隊・深沢救急隊
浄明寺出張所		2台	1台	3台	1台	2台	浄明寺隊・浄明寺救急隊
七里ガ浜出張所		2台	1台	3台	1台	2台	七里ガ浜隊・七里ガ浜救急隊
大船消防署	1台	9台	5台	10台		4台	大船隊・大船救助隊 大船救急隊・指令車
玉縄出張所		2台	1台	3台	1台	2台	玉縄隊・玉縄救急隊
今泉出張所		2台	1台	3台	1台	2台	今泉隊・今泉救急隊
合 計	2台	34台	18台	38台	7台	20台	

無線機搭載周波数

種 別		周波数	基 地 局	陸 上 移 動 局			
				可 搬 型	車 載 型	携 帯 型	卓上型
活動波	活動波1	非公開	1	2	34	18	7
	活動波2	非公開	1	2	34	18	7
	活動波3	非公開	1	2	34	18	7
共通波	統制波1	非公開	1	2	34	18	7
	統制波2	非公開	1	2	34	18	7
	統制波3	非公開	1	2	34	18	7
	主運用波	非公開	1	2	34	18	7
	防災相互波	非公開	1	0	34	8	0
署活動波	1 c h 2 c h	鎌倉専用波	0	0	0	38	0
	3 c h	関東共通波					
	4 c h	防災相互波					

119番受信状況

平成30年中

月別	回線種別 小計	火災	救急	救助	その他の 害	試験	いたずら	まちがい	その他	合計
1	加入電話	0	264	1	1	4	0	6	64	340
	I P 電話	0	413	0	2	0	0	9	62	486
	携帯電話	2	308	1	2	0	0	8	131	452
	小計	2	985	2	5	4	0	23	257	1,278
2	加入電話	0	196	2	0	3	1	5	63	270
	I P 電話	0	388	0	0	4	0	8	64	464
	携帯電話	1	276	1	0	3	0	8	102	391
	小計	1	860	3	0	10	1	21	229	1,125
3	加入電話	2	216	0	1	4	4	5	92	324
	I P 電話	0	399	1	0	4	0	3	76	483
	携帯電話	1	257	1	0	2	0	11	101	373
	小計	3	872	2	1	10	4	19	269	1,180
4	加入電話	2	178	3	0	1	0	8	78	270
	I P 電話	1	318	1	2	4	0	4	73	403
	携帯電話	2	229	0	1	3	0	12	109	356
	小計	5	725	4	3	8	0	24	260	1,029
5	加入電話	0	202	1	0	12	1	7	74	297
	I P 電話	3	334	0	0	1	0	8	48	394
	携帯電話	2	262	1	2	3	0	11	129	410
	小計	5	798	2	2	16	1	26	251	1,101
6	加入電話	5	192	1	1	3	0	11	64	277
	I P 電話	0	362	2	1	4	0	9	59	437
	携帯電話	2	265	2	4	2	0	23	115	413
	小計	7	819	5	6	9	0	43	238	1,127
7	加入電話	0	215	0	1	3	0	9	82	310
	I P 電話	0	401	2	0	7	1	5	68	484
	携帯電話	0	314	2	3	3	1	16	122	461
	小計	0	930	4	4	13	2	30	272	1,255
8	加入電話	3	234	0	1	1	0	3	66	308
	I P 電話	1	384	0	0	5	0	10	58	458
	携帯電話	4	318	0	1	1	1	19	146	490
	小計	8	936	0	2	7	1	32	270	1,256
9	加入電話	3	192	0	1	6	0	7	78	287
	I P 電話	0	356	0	0	3	0	4	66	429
	携帯電話	0	252	2	2	2	4	16	114	392
	小計	3	800	2	3	11	4	27	258	1,108
10	加入電話	0	190	0	1	2	2	14	117	326
	I P 電話	0	383	0	1	2	0	6	100	492
	携帯電話	5	326	0	3	1	0	14	155	504
	小計	5	899	0	5	5	2	34	372	1,322
11	加入電話	1	185	0	0	1	1	5	86	279
	I P 電話	2	368	0	0	1	0	7	78	456
	携帯電話	1	256	0	0	3	0	11	115	386
	小計	4	809	0	0	5	1	23	279	1,121
12	加入電話	0	210	0	0	2	0	11	61	284
	I P 電話	0	401	0	0	0	2	5	80	488
	携帯電話	1	303	1	1	2	0	14	141	463
	小計	1	914	1	1	4	2	30	282	1,235
加入電話	16	2,474	8	7	42	9	91	925	3,572	
I P 電話	7	4,507	6	6	35	3	78	832	5,474	
携帯電話	21	3,366	11	19	25	6	163	1,480	5,091	
合計		44	10,347	25	32	102	18	332	3,237	14,137

消防本部・大船消防署 年間気象観測データ（平成30年）

【月別データ】

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
風 向 風 速	最 多 風 向	北北東	北北東	北北東	南南西	南南西	南南西	南南西	南南西	北北東	北北東	北北東	北北東	
	平 均 風 速 (m/s)	1.7	2.1	3.0	3.1	3.0	2.8	3.3	3.2	2.7	2.4	1.8	2.0	
	最大瞬間	風 向	南西	北	南南西	南南西	南南西	南南西	北	南	南	南西	北東	南西
		風 速 (m/s)	19.6	16.8	23.5	25.9	24.4	22.2	21.3	21.4	29.5	39.0	11.6	16.2
		計測日	1月9日	2月17日	3月9日	4月15日	5月3日	6月27日	7月28日	8月24日	9月30日	10月1日	11月7日	12月4日
	計測時刻	13時19分	15時15分	4時55分	6時35分	7時27分	11時34分	17時10分	12時43分	23時58分	0時21分	9時36分	14時34分	
気 温 (℃)		5.2	5.7	11.8	16.9	19.6	22.1	27.4	27.8	23.2	19.8	14.6	9.1	
相 対 湿 度 (%)		54.5	56.0	68.7	72.6	77.2	85.6	87.3	84.0	87.6	73.9	72.9	62.0	
実 効 湿 度 (%)		54.6	55.9	68.7	72.2	76.9	85.5	87.5	84.2	87.2	74.8	72.7	62.5	
気 圧 (hPa)		1012.7	1015.0	1015.2	1012.6	1009.8	1007.7	1008.8	1007.1	1011.7	1013.9	1018.0	1017.0	
雨 量 (mm)		74.5	25.5	220.0	111.5	176.5	173.0	94.0	134.0	293.0	58.0	43.0	64.0	
累 計 雨 量 (mm)		74.5	100.0	320.0	431.5	608.0	781.0	875.0	1009.0	1302.0	1360.0	1403.0	1467.0	
降 雨 (日数)		114	4	4	11	9	10	13	5	10	20	9	11	8

*気温・相対湿度・実効湿度・気圧は1か月の平均値。

【年間データ】

観 測 状 況	観測データ	観 測 日 時	観 測 状 況	観測データ	観 測 日 時
最大瞬間風速 (m/s)	39.0	10月1日 0時21分	最大実効湿度 (%)	97.6	9月16日 7時01分
最大瞬間風向	南西		最低実効湿度 (%)	33.6	1月27日 20時01分
平均風速 (m/s)	2.6	10月1日 1時05分	平均実効湿度 (%)	73.6	
最多風向	北北東		最大気圧 (hPa)	1033.7	3月7日 9時11分
最大平均風速 (m/s)	18.6		最低気圧 (hPa)	978.2	10月1日 1時21分
最大平均風向	南南西		平均気圧 (hPa)	1012.5	
最高気温 (℃)	35.8	7月23日 9時23分	最大日雨量 (mm)	65.5	3月1日
最低気温 (℃)	-5.0	1月27日 5時59分	年間総雨量 (mm)	1467.0	
平均気温 (℃)	16.9		降雨日数 (日)	114	
最大相対湿度 (%)	99.9	1月9日 7時11分			
最低相対湿度 (%)	13.8	1月3日 14時07分			
平均相対湿度 (%)	73.5				

鎌倉消防署 年間気象観測データ (平成30年)

【月別データ】

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
風 向 風 速	最 多 風 向	北北東	北北東	南西	南西	南西	南西	南西	南西	北北東	北北東	北北東	北北東	
	平 均 風 速 (m/s)	3.8	3.6	4.7	4.9	4.4	4.0	4.6	4.8	4.2	3.6	2.7	3.2	
	最大瞬間	風 向	南西	西	南南西	南西	南西	南南西	南西	南西	南	南南西	北東	西
		風 速 (m/s)	26.3	20.3	27.4	33.7	23.8	21.6	27.6	23.6	38.6	49.9	12.9	20.2
		計測日	1月9日	2月14日	3月5日	4月6日	5月7日	6月27日	7月5日	8月24日	9月30日	10月1日	11月7日	12月19日
	計測時刻	13時21分	18時45分	18時52分	22時42分	3時21分	10時22分	0時05分	9時16分	0時00分	1時32分	9時28分	17時03分	
気 温 (°C)		6.0	6.1	11.8	16.6	19.2	21.8	26.8	27.3	23.1	19.8	14.7	9.3	
相 対 湿 度 (%)		54.7	56.7	72.0	77.0	82.2	88.8	92.2	87.9	89.0	74.8	72.7	61.5	
実 効 湿 度 (%)		54.8	56.6	71.9	76.4	82.1	88.6	92.4	88.1	88.7	75.7	72.5	62.0	
気 圧 (hPa)		1012.9	1015.3	1015.5	1013.0	1010.1	1008.0	1009.2	1007.5	1012.0	1014.1	1018.1	1017.0	
雨 量 (mm)		69.5	23.5	197.5	90.5	169.5	117.5	82.5	96.0	242.5	43.5	20.0	25.0	
累 計 雨 量 (mm)		69.5	93.0	290.5	381.0	550.5	668.0	750.5	846.5	1089.0	1132.5	1152.5	1177.5	
降 雨 (日 数)		104	4	4	11	9	10	13	5	8	17	9	6	8

* 気温・相対湿度・実効湿度・気圧は1か月の平均値。

【年間データ】

観 測 状 況	観測データ	観 測 日 時	観 測 状 況	観測データ	観 測 日 時
最大瞬間風速 (m/s)	49.9	10月1日 1時32分	最大実効湿度 (%)	98.9	7月7日 7時1分
最大瞬間風向	南南西		最低実効湿度 (%)	34.1	1月27日 19時1分
平均風速 (m/s)	4.0	10月1日 1時35分	平均実効湿度 (%)	75.8	
最多風向	北北東		最大気圧 (hPa)	1033.9	3月7日 10時1分
最大平均風速 (m/s)	30.2		最低気圧 (hPa)	978.2	10月1日 1時27分
最大平均風向	南西		平均気圧 (hPa)	1012.7	
最高気温 (°C)	34.9	7月23日 8時42分	最大日雨量 (mm)	63.5	5月13日
最低気温 (°C)	-3.7	1月27日 5時28分	年間総雨量 (mm)	1177.5	
平均気温 (°C)	16.9		降雨日数 (日)	104	
最大相対湿度 (%)	99.9	1月9日 5時35分			
最低相対湿度 (%)	14.2	1月3日 13時33分			
平均相対湿度 (%)	75.8				

【天気概要】

※6時00分から18時00分までの平均天候

項目/月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
快晴	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
晴	18	15	18	19	16	16	20	22	12	18	19	17	210
曇	5	9	9	9	13	9	8	8	8	12	7	10	107
雨	2	1	3	2	2	5	3	1	10	1	4	4	38
雪	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
霧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

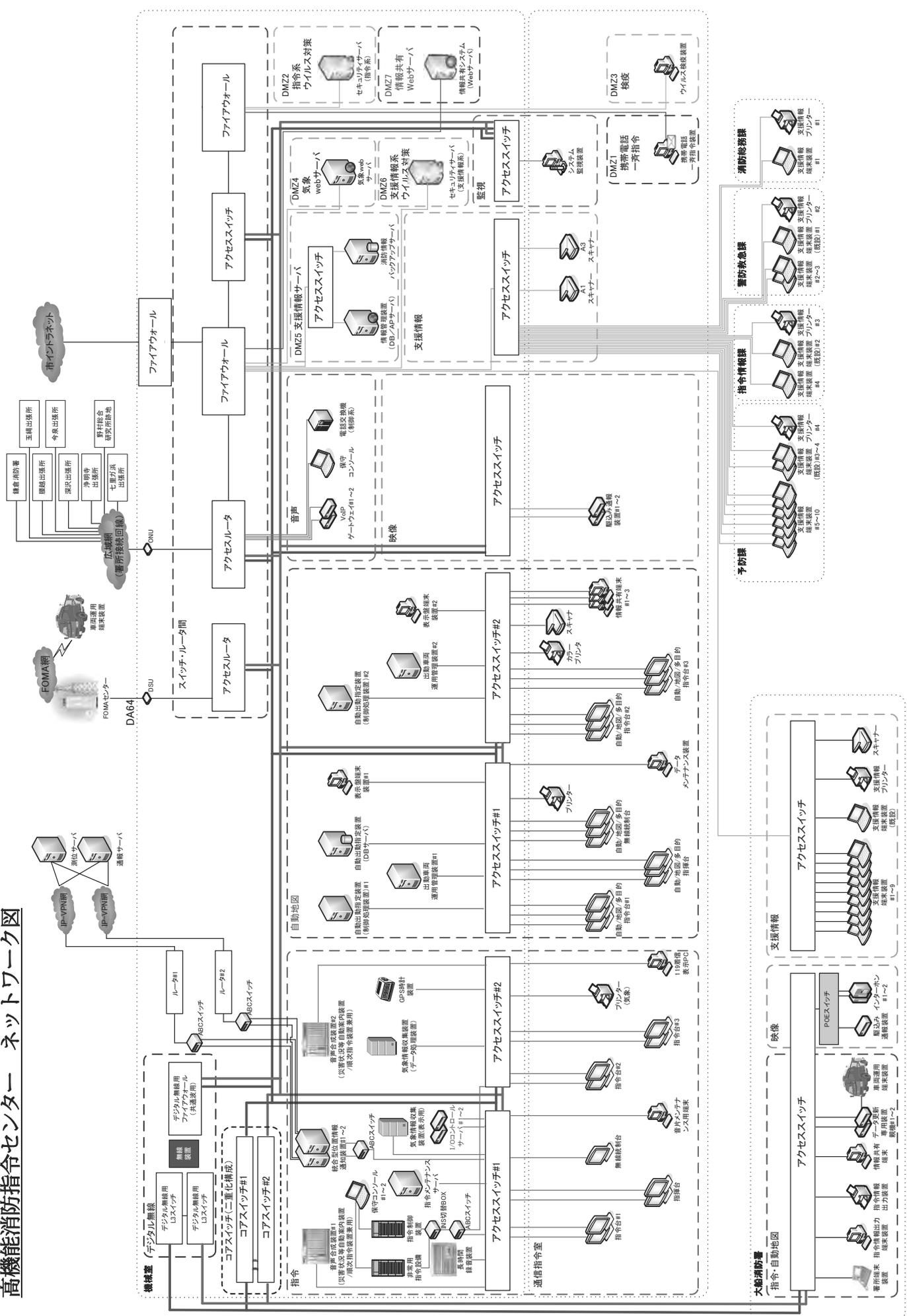
【月別気象警報・注意報発表状況】

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
警報	暴風雪													0
	大雨			1	1		1	2	1	2				8
	洪水													0
	暴風							1	1	2				4
	大雪	1												1
	波浪							1	2	2				5
	高潮													0
注意報	大雨			6	1	5	3	5	4	10	1			35
	大雪	1	1											2
	着雪	1	1											2
	風雪	1	1	1										3
	雷	1	1	3	1	7	4	11	11	8	3	2	1	53
	強風	14	11	10	9	7	7	2	5	8	6	5	11	95
	波浪	4	3	3	4	3	3	3	4	3	3			33
	融雪													0
	洪水			2	1	1	1	1	2	3				11
	高潮													0
	濃霧						2	2						4
	乾燥	3	2	2	2							1	4	14
	なだれ													0
	低温	3												3
	霜													0
光化学スモッグ													0	
津波													0	

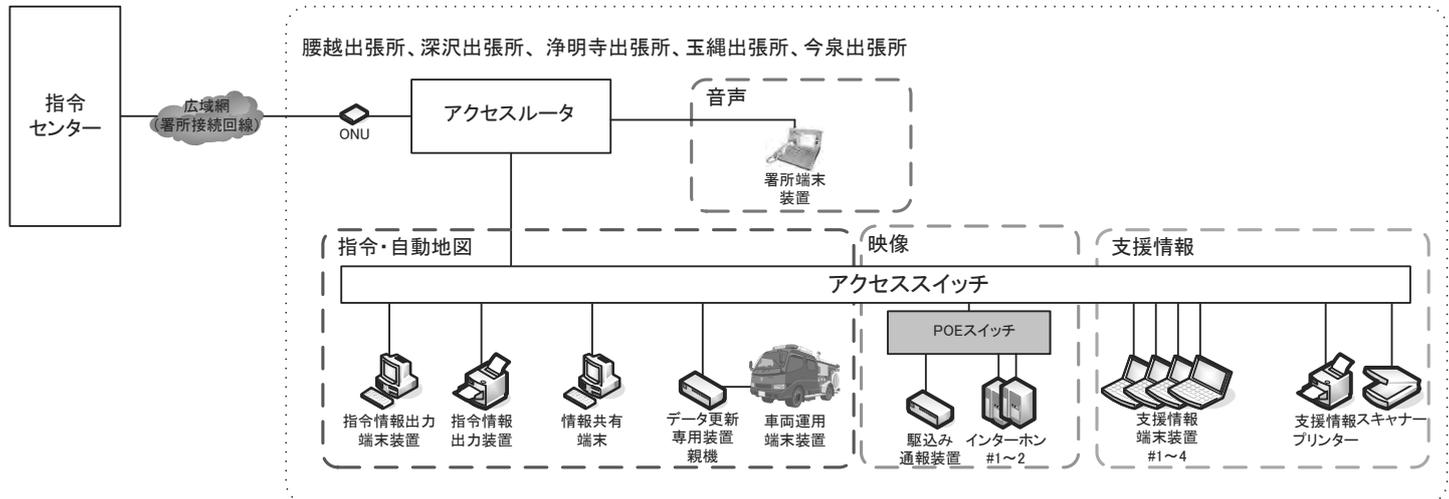
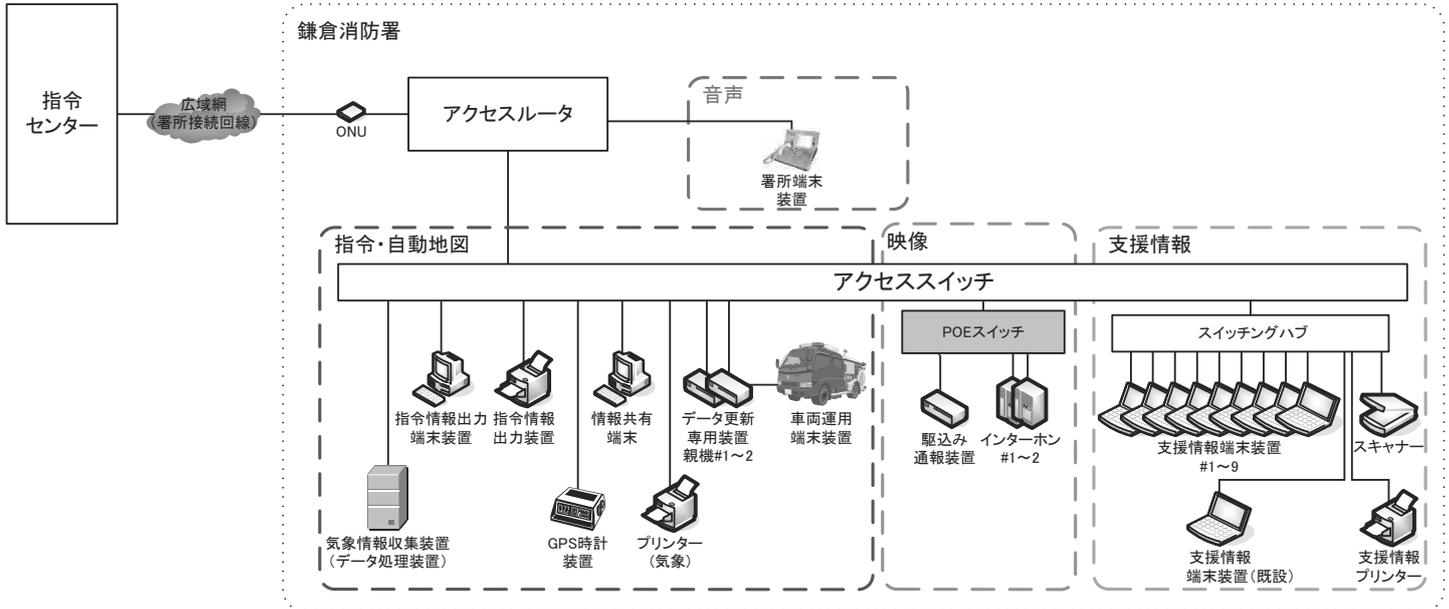
【月別気象情報】

項別/月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
火災予防	40	30	12	18	11	6	2	5	4	3	3	17	151
大雨					2	6	12		1				21
大雨と雷及び突風						1		8	2				11
大雨と雷及び高波					2								2
高波と雷及び突風													0
大雨と雷及び降ひょう								1					1
台風													0
雷と突風及び降ひょう						1				5	4		10
高温注意情報							12	13					25
竜巻			1				1	7	10	1		1	21
大雪			3										3
大雨と雷								2					2
土砂災害警戒情報							2		2	2			6
高波と強風及び大雨													0
強風と高波及び雷		3	2	3									8
雷と降ひょう													0
波と大雨					1								1
大雨と高波			1		1	2							4
大雨と高波及び強風			6										6
高波と強風													0
雷													0
異常天候早期警戒 (大雪)													0
異常天候早期警戒 (高温)						1	5				3		9
異常天候早期警戒 (気温)			1										1
異常天候早期警戒 (低温)													0
異常天候早期警戒 (大雨)													0
記録的短時間大雨情報													0

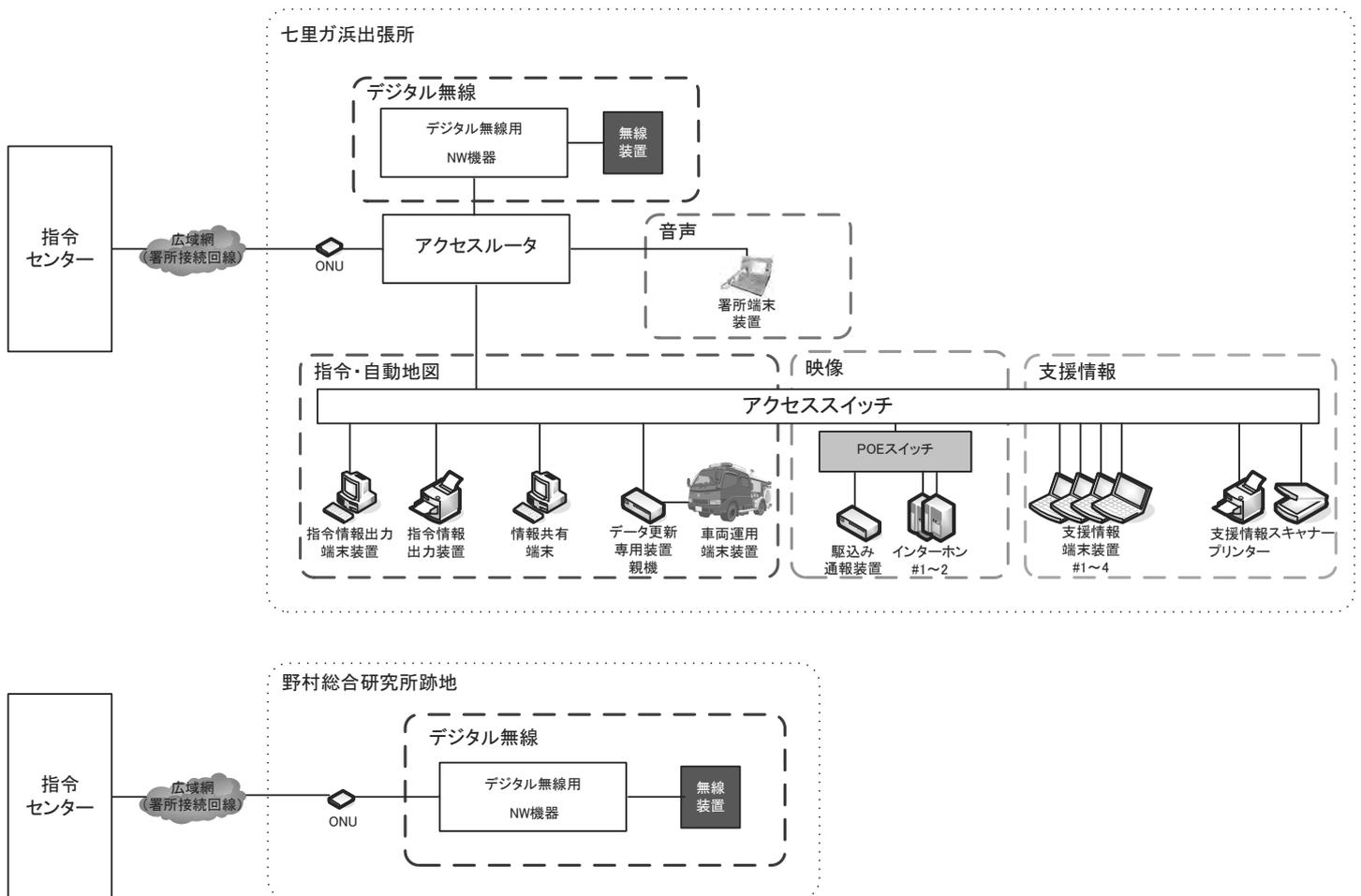
高機能消防指令センター ネットワーク図



高機能消防指令センター 署所ネットワーク図①



高機能消防指令センター 署所ネットワーク図②



予 防



防火対象物及び防火管理者選任状況

平成31年（2019年）4月1日 現在

			消防用設備等設置義務対象数	防火管理者選任状況数			
				選任義務対象数	届出済対象数	選任率 (%)	
合 計			4,680	1,226	1,163	94.86%	
1	イ	劇場・映画館・演芸場・観覧場	2	1	1	100.00%	
	ロ	公会堂・集会場	37	15	15	100.00%	
2	イ	キャバレー・カフェー・ナイトクラブ等	0	0	0	0.00%	
	ロ	遊技場・ダンスホール	5	5	5	100.00%	
	ハ	風俗営業等	0	0	0	0.00%	
	ニ	カラオケボックス等	2	2	2	100.00%	
3	イ	待合・料理店等	2	1	1	100.00%	
	ロ	飲食店	130	82	75	91.46%	
4		百貨店・マーケット・物品販売業・展示場	140	90	85	94.44%	
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所等	83	21	20	95.24%	
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	2054	183	171	93.44%	
6	イ	(1) 病院	15	7	7	100.00%	
		(2) 有床診療所	2	2	2	100.00%	
		(3) (1)以外の病院・(2)以外の有床診療所・助産所	5	5	5	100.00%	
		(4) その他診療所・その他助産所	34	8	7	87.50%	
	ロ	(1) 高齢者施設	52	49	49	100.00%	
		(2) 生活保護者施設	0	0	0	0.00%	
		(3) 児童施設	0	0	0	0.00%	
		(4) 障害児施設	0	0	0	0.00%	
		(5) 障害者施設	3	2	2	100.00%	
	ハ	(1) 高齢者施設	27	0	0	0.00%	
		(2) 生活保護者施設	0	0	0	0.00%	
		(3) 児童施設	29	24	24	100.00%	
		(4) 障害児施設	1	1	1	100.00%	
		(5) 障害者施設	24	5	4	80.00%	
	ニ	幼稚園・特別支援学校	33	20	20	100.00%	
	7		小・中・高・大学・各種学校等	110	40	40	100.00%
	8		図書館・博物館・美術館等	14	8	8	100.00%
	9	イ	公衆浴場のうち、蒸気浴場・熱気浴場等	1	1	0	0.00%
ロ		イ以外の公衆浴場	3	1	1	100.00%	
10		車両の停車場等	2	0	0	0.00%	
11		神社・寺院・教会等	148	45	43	95.56%	
12	イ	工場・作業場	166	23	22	95.65%	
	ロ	映画スタジオ・テレビスタジオ	0	0	0	0.00%	
13	イ	自動車車庫・駐車場	107	0	0	0.00%	
	ロ	飛行機・回転翼航空機の格納庫	0	0	0	0.00%	
14		倉庫	149	2	2	100.00%	
15		前各項に該当しない事業場	371	110	107	97.27%	
16	イ	複合用途（特定用途を含む）	717	439	411	93.62%	
	ロ	イ以外の複合用途	173	21	20	95.24%	
17		文化財施設等	39	13	13	100.00%	
20		総務省令で定める舟車	0	0	0	0.00%	

中高層建築物一覽表

平成31年(2019年)4月1日現在

階数 署所別	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	合計
鎌倉	300	121	20	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	444
腰越	59	8	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	73
深沢	98	75	53	7	3	5	1	0	0	0	0	0	0	242
浄明寺	52	17	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	72
七里ガ浜	20	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27
大船	304	159	49	35	31	7	5	8	0	0	0	0	0	598
玉縄	60	45	16	3	3	2	4	5	3	1	0	1	1	144
今泉	55	12	3	2	5	2	1	1	0	0	0	0	0	81
合計	948	444	148	50	43	17	11	14	3	1	0	1	1	1681

※3階：一般住宅を除く

建築確認申請消防同意状況(業態別)

平成30年度

業態別		区分	合計 案件数	新 築 件 数	増 築 件 数	改 築 件 数	移 築 件 数	用途変 更件数	模様 替 件 数	その他
合 計			444	421	9	0	0	14	0	0
1	イ	劇場・映画館・演芸場	2	2	0	0	0	0	0	0
	ロ	公会堂・集会場	1	0	0	0	0	1	0	0
2	イ	キャバレー・カフェ・ナイトクラブ等	0	0	0	0	0	0	0	0
	ロ	遊技場・ダンスホール	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハ	風俗営業等	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニ	カラオケボックス等	0	0	0	0	0	0	0	0
3	イ	待合・料理店等	0	0	0	0	0	0	0	0
	ロ	飲食店	13	11	0	0	0	2	0	0
4		百貨店・マーケット・物品販売	6	6	0	0	0	0	0	0
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所	3	2	0	0	0	1	0	0
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	56	56	0	0	0	0	0	0
6	イ	(1) 病院	2	2	0	0	0	0	0	0
		(2) 有床診療所	0	0	0	0	0	0	0	0
		(3) (1)以外の病院・(1)以外の有床診療所・助産所	0	0	0	0	0	0	0	0
		(4) その他診療所・その他助産所	2	1	1	0	0	0	0	0
	ロ	(1) 高齢者施設	2	2	0	0	0	0	0	0
		(2) 生活保護者施設	0	0	0	0	0	0	0	0
		(3) 児童施設	0	0	0	0	0	0	0	0
		(4) 障害児施設	0	0	0	0	0	0	0	0
		(5) 障害者施設	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハ	(1) 高齢者施設	0	0	0	0	0	0	0	0
		(2) 生活保護者施設	0	0	0	0	0	0	0	0
		(3) 児童施設	8	6	0	0	0	2	0	0
		(4) 障害児施設	0	0	0	0	0	0	0	0
		(5) 障害者施設	1	0	0	0	0	1	0	0
	ニ	幼稚園・養護学校	0	0	0	0	0	0	0	0
7		小・中・高・大学・各種学校	3	3	0	0	0	0	0	
8		図書館・博物館・美術館	1	1	0	0	0	0	0	
9	イ	公衆浴場のうち・蒸気浴場・熱気浴場	0	0	0	0	0	0	0	
	ロ	イ以外の公衆浴場	0	0	0	0	0	0	0	
10		車両の停車場	4	2	2	0	0	0	0	
11		神社・寺院・協会等	1	1	0	0	0	0	0	
12	イ	工場・作業場	1	0	1	0	0	0	0	
	ロ	映画スタジオ・テレビスタジオ	0	0	0	0	0	0	0	
13	イ	自動車庫庫・駐車場	4	3	1	0	0	0	0	
	ロ	飛行機等の格納庫	0	0	0	0	0	0	0	
14		倉庫	4	2	1	0	0	1	0	
15	①	官公署	1	1	0	0	0	0	0	
	②	事務所等	13	13	0	0	0	0	0	
	③	その他	17	17	0	0	0	0	0	
16	イ	複合用途(特定用途を含む)	21	14	1	0	0	6	0	
	ロ	イ以外の複合防火対象物	2	2	0	0	0	0	0	
16の2		地下街	0	0	0	0	0	0		
17		文化財施設等	1	0	1	0	0	0		
専 用 住 宅			275	274	1	0	0	0	0	

建築確認申請消防同意状況（月別）

（特殊建築物・住宅）

平成30年度

区分 月別	合計	新築	増築	改築	移転	用途変更	大規模の 修繕	大規模の 模様替	その他
合計	444	421	9	0	0	14	0	0	0
4月	39	38	0	0	0	1	0	0	0
5月	50	49	0	0	0	1	0	0	0
6月	38	37	1	0	0	0	0	0	0
7月	37	34	2	0	0	1	0	0	0
8月	38	37	1	0	0	0	0	0	0
9月	31	31	0	0	0	0	0	0	0
10月	46	41	3	0	0	2	0	0	0
11月	35	33	0	0	0	2	0	0	0
12月	36	32	0	0	0	4	0	0	0
1月	31	30	0	0	0	1	0	0	0
2月	18	18	0	0	0	0	0	0	0
3月	45	41	2	0	0	2	0	0	0

建築確認申請消防通知状況

（特殊建築物・住宅・建築設備）

平成30年度

区分	合計	新築	増築	改築	移転	用途変更	大規模の 修繕	大規模の 模様替	その他
合計	644	632	11	0	0	1	0	0	0
指定確認 検査機関	602	594	8	0	0	0	0	0	0
特定 行政庁	42	38	3	0	0	1	0	0	0

建築確認申請消防通知状況（月別）

（特殊建築物・住宅・建築設備）

平成30年度

区分 月別	合計	新築	増築	改築	移転	用途変更	大規模の 修繕	大規模の 模様替	その他
合計	644	632	11	0	0	1	0	0	0
4月	48	48	0	0	0	0	0	0	0
5月	63	62	1	0	0	0	0	0	0
6月	49	49	0	0	0	0	0	0	0
7月	47	44	3	0	0	0	0	0	0
8月	56	55	1	0	0	0	0	0	0
9月	45	45	0	0	0	0	0	0	0
10月	65	64	1	0	0	0	0	0	0
11月	67	66	1	0	0	0	0	0	0
12月	67	66	1	0	0	0	0	0	0
1月	43	42	1	0	0	0	0	0	0
2月	55	53	1	0	0	1	0	0	0
3月	39	38	1	0	0	0	0	0	0

危険物施設数及び類別状況

平成31年(2019年)4月1日現在

区分	製造所の別	合計	製造所	貯蔵所							取扱所				
				屋内貯蔵	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外貯蔵	給油取扱所	第一種販売	第二種販売	一般取扱所	
施設数計		107	1	24	2	5	18	1	18	1	16	2	0	19	
数量別	5倍以下	52	0	11	1	4	10	1	18	0	0	2	0	5	
	5倍を超え10倍以下	19	0	4	0	0	5	0	0	1	1	0	0	8	
	10倍を超え50倍以下	24	1	9	0	1	3	0	0	0	4	0	0	6	
	50倍を超え100倍以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	100倍を超え150倍以下	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	
	150倍を超え200倍以下	3	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	
	200倍を超え1,000倍以下	7	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	
	1,000倍を超え5,000倍以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	5,000倍を超え10,000倍以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	10,000倍を超えるもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
類別	単	第1類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		第2類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		第3類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	独	第4類	106	1	23	2	5	18	1	18	1	16	2	0	19
		第5類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		第6類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
混在		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

危険物施設の許可・完成検査及び廃止届の状況

平成30年度

区分	設置	許可		完成検査			廃止届
		変更(転入)		設置	変更	転入	
		施設	移動タンク常置場所				
合計	0	8	0	0	8	0	3

危険物施設管内別状況

平成31年(2019年)4月1日現在

管内別	製造所の別	合計	製造所	貯蔵所							取扱所			
				屋内貯蔵	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外貯蔵	給油取扱所	第一種販売	第二種販売	一般取扱所
合計		107	1	24	2	5	18	1	18	1	16	2	0	19
鎌倉消防署		14	0	1	1	2	3	0	0	0	3	1	0	3
腰越出張所		3	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1
深沢出張所		18	0	12	0	0	1	0	0	0	4	0	0	1
浄明寺出張所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
七里が浜出張所		5	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
大船消防署		27	1	8	0	2	4	0	0	1	4	1	0	6
玉縄出張所		16	0	1	0	0	6	0	3	0	3	0	0	3
今泉出張所		24	0	1	1	0	2	1	15	0	1	0	0	3

文化財保有社寺等防災施設

平成31年(2019)年4月1日現在(総数 75 対象)

◎印 煙感知器作動により扉が自動閉鎖するもの

区分	警報施設		防 災 施 設					文化財
	自火報	非常ベル	防火水槽	消火栓	消火器	収蔵庫	その他	
妙法寺	○				○			建造物
長勝寺	○		○	○	○			建造物
浄光明寺	○		○	○	○	○		建造物
寿福寺	○				○			建造物
英勝寺	○		○		○			建造物
光明寺	○		○	○	○			建造物
鶴岡八幡宮	○		○	○	○	○	放水銃	建造物
覚園寺	○		○		○			建造物
杉本寺	○			○	○	○		建造物
浄妙寺	○				○	○		収容物
一条恵観山荘	○		○	○	○		ドレンジャー放水銃	建造物
鎌倉宮	○		○		○			収容物
荏柄天神社	○				○		放水銃	建造物
建長寺	○		○	○	○	○		建造物
円覚寺	○			○	○	○	放水銃	建造物
常楽寺	○		○	○	○		放水銃	建造物
熊野神社	○				○			建造物
龍寶寺	○				○			建造物
妙隆寺		○			○			収容物
五所神社					○			収容物
来迎寺	○				○			収容物
大町八雲神社					○	○		収容物
妙本寺	○				○	○		建造物
安養院	○				○			収容物
本覚寺	○				○			収容物
薬王寺					○			収容物
蓮乗院		○			○			収容物
海蔵寺			○		○			収容物
教恩寺		○			○			収容物
別願寺					○			収容物
向福寺					○			収容物
九品寺					○			収容物
安国論寺		○			○			収容物
高德院	○			○	○	○		収容物
長谷寺	○		○	○	○	◎		収容物
光則寺	○				○			収容物
御霊神社	○				○	○		収容物

◎印 煙感知器作動により扉が自動閉鎖するもの

区分	警報施設		防 災 施 設					文化財
	自火報	非常ベル	防火水槽	消火栓	消火器	収蔵庫	その他	
法源寺			○		○			収容物
町屋天満宮					○			収容物
青蓮寺	○		○	○	○	○		収容物
大慶寺	○				○			収容物
鎌倉国宝館	○			○	○	◎		収容物
宝戒寺		○	○		○	○		収容物
来迎寺	○				○			収容物
西御門八雲神社					○			収容物
光触寺	○			○	○			収容物
明王院					○	◎		収容物
報国寺	○				○			収容物
瑞泉寺		○		○	○	○		収容物
成就院		○			○			収容物
極楽寺	○				○	○		収容物
成福寺	○				○			収容物
続灯庵		○			○			収容物
松ヶ岡文庫				○	○	○		収容物
東慶寺	○			○	○	◎		収容物
浄智寺	○				○			収容物
円応寺	○			○	○			収容物
正統院					○			収容物
山ノ内八雲神社			○		○			収容物
龍峰院	○				○			収容物
佛日庵	○				○			収容物
白雲庵	○			○	○			収容物
禪居院					○			収容物
明月院					○	○		収容物
光照寺		○			○			収容物
富陽庵		○			○			収容物
黄梅院					○			収容物
帰源院	○				○			収容物
妙高院	○				○			収容物
大船観音寺		○			○			収容物
円光寺	○				○			収容物
白山神社	○				○			収容物
大長寺		○			○			収容物
北野神社								収容物
敵島神社								収容物

動力消防ポンプ現有自衛消防隊一覽

平成 31 年（2019 年） 4 月 1 日現在

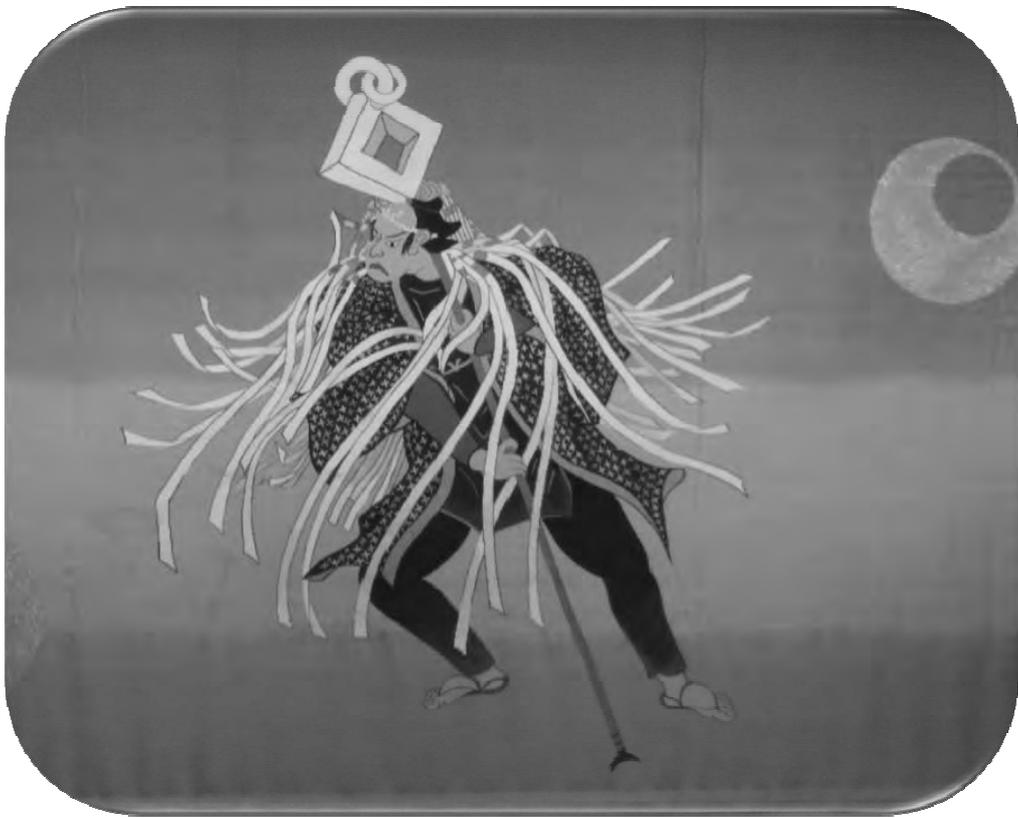
区分 対象物名	種 別 型 式	車 名	ポンプ名	級別	消火剤		隊員数	
					泡原液	消火器	専任	その他
三菱電機(株) 鎌倉製作所	消防 ポンプ車	日野 デュトロ	モリタ	A-2		有 (6 kg)		32
東レ株式会社 基礎研究所	可 搬 P456		ラビット	B-3				4
中外製薬株式会社 鎌倉研究所	可 搬 P450		ラビット	B-3				10
日本シー・ビー・ ケミカル株式会社	可 搬 P455S		ラビット	B-3		有 (6 kg)		7
三菱電機(株)情報 技術総合研究所	可 搬 P555A	スバルサ ンバー	ラビット	B-2		有 (6 kg)		12
デンカ株式会社 大船工場	可 搬 P455		ラビット	B-3				6
(株)大倉製作所 大船工場	可 搬 P455		ラビット	B-3				13

消防ポンプを保有している自衛消防組織は、7事業所

普通消防ポンプ自動車 1 台

小型動力ポンプ 6 台

消防団



消防団現況

平成31年（2019年）4月1日現在

区分	消 防 団 員 現 況								小型動力 ポンプ付 積載車	防 災 資 機 材										
	合計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員		5tジャン キ	てこ バール	のこぎり 万能おの	投光器 発電機	ホルトク リッパー	チェー ンソー	強 力 ライ ト	ヘッ ド ライ ト	トラン シーバ	拡声器	ガソリン 携行缶
計	422	1	3	31	28	28	80	251	28	28	28	28	28	28	60	144	60	29	28	239
本団	11	1	3	3	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4	4	4	1	0	4
第1分団	16	0	0	1	1	1	3	10	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	5
第2分団	16	0	0	1	1	1	3	10	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	5
第3分団	10	0	0	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	5
第4分団	17	0	0	1	1	1	3	11	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	5
第5分団	13	0	0	1	1	1	2	8	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	5
第6分団	14	0	0	1	1	1	3	8	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	5
第7分団	15	0	0	1	1	1	4	8	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	5
第8分団	13	0	0	1	1	1	3	7	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	5
第9分団	12	0	0	1	1	1	2	7	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	5
第11分団	15	0	0	1	1	1	3	9	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	5
第12分団	16	0	0	1	1	1	4	9	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	5
第13分団	14	0	0	1	1	1	3	8	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	5
第14分団	12	0	0	1	1	1	2	7	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	5
第15分団	13	0	0	1	1	1	2	8	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	5
第16分団	12	0	0	1	1	1	2	7	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	5
第17分団	13	0	0	1	1	1	3	7	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	5
第18分団	15	0	0	1	1	1	3	9	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	5
第19分団	15	0	0	1	1	1	3	9	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	5
第20分団	16	0	0	1	1	1	3	10	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	5
第21分団	22	0	0	1	1	1	4	15	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	11
第22分団	25	0	0	1	1	1	5	17	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	25
第23分団	13	0	0	1	1	1	3	7	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	13
第24分団	14	0	0	1	1	1	3	8	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	14
第25分団	8	0	0	1	1	1	2	3	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	12
第26分団	17	0	0	1	1	1	3	11	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	16
第27分団	16	0	0	1	1	1	3	10	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	16
第28分団	17	0	0	1	1	1	3	11	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	18
第29分団	12	0	0	1	1	1	2	7	1	1	1	1	1	1	2	5	2	1	1	15

消防団員の年齢及び実員

平成31年（2019年）4月1日現在

階級別 年齢	合計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
平均年齢（歳）	43.7	56.0	54.7	51.8	49.0	47.4	45.7	40.8
18歳以上20歳未満	1	0	0	0	0	0	0	1
20歳以上25歳未満	7	0	0	0	0	0	0	7
25歳以上30歳未満	15	0	0	0	0	0	0	15
30歳以上35歳未満	43	0	0	0	0	0	6	37
35歳以上40歳未満	55	0	0	2	4	3	4	42
40歳以上45歳未満	94	0	0	0	5	7	21	61
45歳以上50歳未満	93	0	0	5	4	7	30	47
50歳以上55歳未満	67	0	1	12	8	7	14	25
55歳以上60歳未満	44	1	2	10	7	4	7	13
60歳以上	3	0	0	2	0	0	0	1
合 計	422	1	3	31	28	28	82	249

消防団員の勤続年数

平成31年（2019年）4月1日現在

階級別 年数	合計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
平均勤続年数（年）	21.7	35.0	30.7	23.7	20.0	18.9	14.9	8.9
5年未満	101	0	0	0	0	0	4	97
5年以上10年未満	74	0	0	0	2	2	13	57
10年以上15年未満	78	0	0	1	4	7	22	44
15年以上20年未満	64	0	0	8	6	4	26	20
20年以上25年未満	58	0	0	8	10	9	12	19
25年以上30年未満	28	0	1	9	2	4	3	9
30年以上	19	1	2	5	4	2	2	3
合 計	422	1	3	31	28	28	82	249

消防団員就業状況

平成31年(2019年)4月1日現在

【就業場所】

市 内	県 内	県 外	合 計
272 人	106 人	44 人	422 人

【就業別】

区 分	雇 用 者	雇 用 の 人 あ る 主 業	雇 用 の 人 な い 主 業	家 族 従 事 者	役 員	そ の 他	合 計
農 業	0	1	5	8	0	0	14
林 業 ・ 狩 猟 業	0	0	1	1	0	0	2
漁 業 水 産 ・ 養 殖 業	2	0	3	5	0	0	10
鉱 業	0	0	0	0	0	0	0
建 設 業	44	10	9	17	3	0	83
製 造 業	48	1	4	7	1	0	61
電 気 ガ ス 水 道 業	8	0	3	4	0	0	15
運 輸 ・ 通 信 業	15	0	2	0	0	0	17
卸 売 業 ・ 小 売 業	25	4	8	29	1	0	67
金 融 ・ 保 険 業	6	3	0	0	0	0	9
不 動 産 業	1	2	0	0	0	0	3
サ ー ビ ス 業	56	7	8	9	1	0	81
公 務 員	11	0	0	0	0	0	11
学 生	0	0	0	0	0	5	5
そ の 他	30	2	2	10	0	0	44
合 計	246	30	45	90	6	5	422

消防関係記念日・年中行事

- 1月 6日 消防出初式
- 1月 15日～ 1月 21日 防災ボランティア週間
- 1月 17日 防災ボランティアの日
- 1月 26日 文化財防火デー
- 3月 1日～ 3月 7日 春の全国火災予防運動
- 3月 7日 消防記念日
- 6月 1日 気象記念日
- 6月の第2週（日～土） 危険物安全週間
- 7月 1日 国民安全の日
- 8月 30日～9月 9日 防災週間
- 9月 1日 防災の日
- 9月 9日を含む週の日～土 救急医療週間
- 9月 9日 救急の日
- 10月 18日 統計の日
- 11月 5日 津波防災の日
- 11月 9日 119番の日
- 11月 9日～11月15日 秋の全国火災予防運動
- 12月 25日～ 1月3日 年末年始火災特別警戒

鎌倉市消防年報 平成 30 年(2018 年)版

令和元年発行

編集・発行 鎌倉市消防本部

〒247-0056 鎌倉市大船三丁目 5 番 10 号

電 話 0467 (44) 0119

F A X 0467 (45) 6665
